

東京外国語大学 留学生支援の会

No.55
年3回発行

Since 1999

会報

留学生のホームステイ受け入れ家庭(国内どこでも可)を募集中。
日本に来ている留学生のホームステイを受け入れてもよい方は、可能な
時期や人数などをご一報ください。(連絡先:留学生課 042-330-5183)

Pick Up
Event 2016

秋期バザー開催決定! バザー用品受付: 9月27日(水)~9月28日(木)
ボランティア募集! バザー用品の準備・後片付けのご協力者を募っています。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

Contents

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 事業報告と事業計画
	3-1 平成28年度事業報告
	3-2 平成29年度事業計画
	3-3 平成28年度一般会計収支決算・ 平成29年度一般会計予算
	3-4 平成29年度特別会計報告
Page 8.	4. 活動報告
	4-1 春期バザー報告
	4-2 真壁ひな祭り見学
	4-3 鎌倉見学旅行
	4-4 大国魂神社くらやみ祭り
Page 14.	5. 会員の声
	5-1 マインドフルな留学生ツアー
Page 15.	6. 留学生の声
	6-1 Home stay in Otaru
	6-2 留学生活、ありがとう
	6-3 留学生支援の会への感謝
	6-4 囲碁の授業

FOCUS

1. 巻頭言

会長の引き継ぎ依頼を受けて

国際教養大学名誉教授
鮎澤孝子

5月はじめに中嶋洋子会長から突然お電話をいただきびっくりいたしました。

「留学生支援の会」の会長を引き継いで欲しいとのことなのです。実は、その前に、東京外国語大学留学生課の梅田さんから打診のお電話があったのですが、「絶対に無理」とお断りしていたのです。

と言っても、中嶋会長直々のお電話には、お断りしきれずに、お引き受けしてしまった次第です。

私は1997年に東京外国語大学日本課程教授として着任し、中嶋嶺雄学長から辞令を頂き

ました。当時のキャンパスは西ヶ原にあって、校舎はひどく古びており、教室に入るとあちこちの机の上にトイレットペーパーが置いてあって、それは机や椅子の上の砂埃を拭くためとのこと。これが日本の国立大学かと本当に驚きました。

幸い3年後の2000年には入口のTUFS(Tokyo University of Foreign Studies) というモニュメントがまぶしい府中キャンパスに移転。古いキャンパスに廃棄されていたパソコンを院生室に運び込んで音声分析などに利用できるようにしました。

そして、2004年には外大を定年退職したのですが、ちょうどその年、中嶋先生によって創立されたばかりの国際教養大学(Akita International University, AIU)に着任しました。

1年目は国内からの100名、中国からの10名、スウェーデン、モンゴル、アメリカなどからの留学生がともに寮生活をする小さな大学でしたが、今や世界中に175の提携大学をもち、専門職大学院も持つ大学となっています。

中嶋学長は2013年3月に突然この世を去り、全学大きな驚きと悲しみに覆われましたが、現在は元国際基督教大学学長の鈴木典比古先生が学長を引き継がれています。

中嶋洋子会長の後を私が引き継ぐということとはとても荷が重いことではありますが、だれかが引き継がなければならないと覚悟してお受けしました。

「留学生支援の会」の事業報告を拝見すると非常に充実した活動内容であることがわかります。これまで全てを会員からの会費・一般からの寄付・バザーの収入などで運営してきているとのこと、経済的には今後の運営も厳しい状況になってきているとのこと。

近年、どの大学も国際化を目指した教育体制を推進していますが、国際化に対応するという面から言えば、東京外大はもっとも長い

歴史を持ち、最先端をいく大学であることは確かです。

留学生日本語教育センターが2004年に府中市住吉町から府中市朝日町のキャンパスに移転し、外国語学部や大学院の全面改組も経て、国際日本研究センターと留学生日本語教育センターの教員組織を統合した国際日本学研究院が設置されています。

東京外大のこのような組織の変動を踏まえ、これまで継続されてきた東京外大の留学生支援活動をますます活性化するために大いに頑張っていかなければと思います。

皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. ご挨拶

活きた体験から学ぶこと！

会長 中嶋洋子

まず皆様にお知らせすることがあります。当会設立以来、中心となるべき三役を中嶋、笹岡、梅田が担ってきました。

しかし、これ以上継続することは会の新鮮さを欠くものと判断し、近い将来、東京外国語大学に縁の深い鮎澤孝子先生に会長を変わっていただくこととなりました。皆様にご了解いただきたくどうぞよろしく願いいたします。

最近の天候不順に加え、世界各国の情勢が極端に不安な中、会員の皆様方はどのようなお気持ちでお過ごしでしょうか？

REPORT

3. 事業報告と事業計画

さて、「留学生支援の会」のありかたについてですが、会員の数が次第に減り、会費収入で賄っている会の様々な事業について選択、再考察しなければならないと思っています。

各種イベントの実現のための交通費、参加費、食費などが高騰していることも原因でしょう。厳しい運営になりそうで幹事はじめ関係者一同頭を痛めています。

しかし、物は考えよう。昨年の私の個人的な経験のなかに一つのヒントがありますのでお知らせします。

現在小学校3年生の孫が、昨年2年生の時に『スーホの白い馬』というモンゴルの民話を国語の教科書で勉強しました。

ところで、東京外国語大学では、当支援の会と共催で毎年暮れになると「国際交流の夕べ」というイベントを開催しています。その催しの中で、チョコさんというモンゴルからの留学生による馬頭琴の演奏を毎回楽しんでいます。

そこで、孫が通う板橋区の常盤台小学校で実際にチョコさんに来てもらって馬頭琴の演奏会を開くことを考え、実現しました。

当日は校長先生をはじめ多くの生徒たちが実際に馬頭琴という楽器を見てその独特の音色を楽しみました。

チョコさんの友人でセンジャーさんという専門の演奏家も加わってくれました。

一切の費用もかからず、こうして活きた体験をしたのでした。

組織の運営は、予算抜きでも実現可能なのです。

今後のあり方として一考に値すると思います。

3-1 平成28年度事業報告

A. 生活支援事業

1. 給付事業

- (1) 留学生支援の会奨学金を支給
大学院生1名 月額8万円1年間
- (2) 生活用品などを廉価で給付するバザー
 - 1) 春期バザー
期日 4月6日～7日
場所 国際交流会館2号館交流ホール
来場者 約200名
 - 2) 秋期バザー
期日 10月3日～4日
場所 国際交流会館2号館交流ホール
来場者 約200名
- (3) 学会発表旅費の助成金を支給
海外学会発表 1人5万円を6名に
国内学会発表 1人2万円を1名に
- (4) 入院見舞金
1万円1名：今回はありませんでした

2. 貸与事業

緊急貸付金を貸与。
「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等で困窮している留学生に貸与しました。

<内訳>

今期貸与	12名	780,000円
返却	15名	720,000円
貸付総額		4,388,400円
平成29年度当初貸付可能額		835,161円

3. 相談事業

留学生の住居・学費・引っ越し、アルバイト等に関する相談に対応しました。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

国際交流の夕べを大学と共催しました。
平成28年12月9日(金)、大学会館
留学生150名、日本人学生50名、
来賓、大学、支援の会等50名 計200名

2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) 会員の協力によりホームステイを受入れていただきました。

- 1) ふじのくに留学生支援の会による「ふじのくに留学生ツアー」
平成 28 年 8 月 1～3 日 留学生 16 名
平成 29 年 3 月 1～3 日 留学生 18 名
- 2) 会員によるホームステイの受入れ
<内訳>
東京都 5 名、大阪府 5 名、北海道 4 名、
広島県 1 名、静岡県 1 名

(2) 地域の文化行事に参加しました。

- 1) 紅葉丘文化センター秋祭。留学生 10 名
- 2) 武蔵野ライオンズクラブの日本食文化交流会に参加。留学生 9 名
- 3) 府中市エコの集い。留学生 6 名

C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

- 1) 歌舞伎を見学し懇親茶話会を開催
平成 28 年 6 月 5 日 (日)
国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」
留学生 54 名、日本人学生 10 名、
幹事 10 名、大学職員 2 名、合計 76 名
- 2) 東京下町文化体験ツアー
平成 28 年 11 月 27 日 (日)
隅田川クルーズ、浅草散歩、江戸東京博物館を見学し、ちゃんこ鍋を囲む
留学生 52 名、日本人学生 3 名、
幹事 9 名、合計 64 人
- 3) 鎌倉史跡見学バスツアー
平成 28 年 3 月 21 日 (水)
留学生 27 名、日本人学生 4 名、
幹事 6 名、鎌倉会員 2 名、合計 39 人
- 4) 真壁ひなまつり見学ツアー
平成 29 年 2 月 13 日 (月) 茨城県真壁町
留学生 36 名、日本人学生 2 名、
幹事 6 名、大学職員 1 名、合計 45 人
- 5) 大国魂神社くらやみ祭
平成 28 年 5 月 4 日 (水)
留学生 46 名、日本人学生 1 名、
幹事 3 名：合計 50 名

2. 伝統文化の体験

- 1) 伝統文化体験教室を大学と共催しました。
平成 28 年 12 月 9 日 (金) 学生会館等
振袖着付け、華道、茶道、墨絵、折紙、
和紙人形、囲碁 留学生 204 名参加
- 2) 伝統文化指導教室を開催しました。
通年週 1 回
華道、茶道、書道、囲碁
留学生延べ 240 名
- 3) 日本語広場を開催しました。
通年週 2 回
講師 3 名、受講者延べ 300 名
- 4) 七夕茶会を開きました。
平成 28 年 6 月 30 日 (火)
留学生 24 名、日本人学生 20 名

D. 国際理解事業

1. 各国文化紹介

各国のお茶とお菓子を通しての文化紹介。
平成 28 年 10 月 26 日 (水)
紹介する国 米国、ロシア、エジプト
参加者 180 名

2. 国際理解教育へ協力

小中学校の国際理解教育授業へ留学生 9 回派遣
(留学生の国籍・26 か国、延べ 55 名)

府中市立武蔵台小学校、府中市立四谷小学校、
府中市立第七小学校、府中市立第十小学校、
府中市立第五中学校、川崎市立西生田小学校

E. 広報その他の事業

1. 「会報」を 3 回発行しました。

第 52 号 平成 28 年 6 月
第 53 号 平成 28 年 11 月
第 54 号 平成 29 年 2 月

2. 大学新入生入学式で会員募集の説明を実施

3. 幹事会を開催して、行事の企画・運営等を相談しました。

平成 28 年	平成 29 年
4 月 2 日 (土)	1 月 22 日 (土)
5 月 15 日 (日)	2 月 11 日 (日)
7 月 10 日 (日)	
10 月 2 日 (日)	
11 月 6 日 (日)	
12 月 4 日 (日)	

3-2 平成29年度事業計画

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1) 支援の会奨学金の支給

今年度は中止

(2) 生活用品・図書のパザール（廉価で販売）

1) 春季パザール4月 5日(水)～6日(木)

2) 秋季パザール9月27日(水)～28日(木)

(3) 学会出席旅費の助成金

国外開催の学会 1人5万円

国内開催の学会 1人2万円

(4) 入院見舞金

入院5日以上、1人1万円

2. 貸与事業

「緊急貸付基金」より授業料等、緊急に必要な経費のために貸与。

3. 相談事業

留学生の住居・学費・法律・引越し・子供の教育等の相談に対応。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

「国際交流の夕べ」の開催（大学と共催）。留学生と一部日本人学生を招待。12月中旬

2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) ホームステイ・ホームビジットの受入れ

(2) 地域の文化的行事への参加を斡旋

C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

1) 国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」見学

6月11日(日)

2) 東京下町文化体験ツアー

墨田川クルーズ、浅草・江戸東京博物館・相撲ちゃんこ鍋。11月予定

3) 鎌倉見学旅行

鎌倉の文化遺産と自然の見学

平成30年3月予定

2. 伝統文化の体験

1) 「伝統文化体験教室」開催（大学と共催）

12月予定

2) 日本語広場の開催 週2回

3) 「伝統文化指導教室」開催

茶道・華道・書道・囲碁（毎週）

4) 七夕茶会を開催

D. 国際理解事業

1. 各国文化の紹介

テーマ - 私の国のお茶とお菓子 -
年1回開催 3か国

2. 国際理解教育授業への協力

小・中・高からの要請を受けて、国際理解教育の授業に留学生を派遣

E. 広報その他の事業

1. 「支援の会会報誌」の刊行

第55号（平成29年6月）

第56号（平成29年11月予定）

第57号（平成30年2月予定）

2. 会員募集のための諸活動

大学入学式などでアピール

3. 幹事会の開催（原則毎月）

3-3 資料：会計報告と予算

平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）一般会計収支決算

東京外国語大学留学生支援の会 平成28年度 一般会計収支決算 平成28年4月1日～平成29年3月31日

《収入の部》

科目	項目	28年度予算額	28年度決算額	摘要
前年度繰越金		1,935,810	1,935,810	
会費	一般会員	3,060,000	2,619,000	3,000円×249名=747,000 12,000円×186名=1,872,000
	協賛会員	40,000	100,000	20,000円×5名
寄付	一般	400,000	242,000	
	緊急貸付基金	-	-	
その他	バザー等	550,000	533,500	バザー収益金・行事参加費
	利息	500	8	
収入の部合計(A)		5,886,310	5,430,318	

《支出の部》

科目	項目	28年度予算額	28年度決算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	370,000	373,980	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	300,000	288,352	鎌倉見学
	日本文化見学費	△ 670,000	558,928	歌舞伎見学・東京下町体験・ふじの国・くらやみ祭り
	日本先端技術見学費	× 200,000	222,124	先端技術工場見学(今年度は難登り見学)
	日本文化体験費	△ 330,000	216,243	華道・書道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	100,000	107,088	茶・菓子等
	その他の交流活動費	150,000	142,335	国際理解教育謝金・交通費
活動費 (生活支援事業)	留学生支援の会奨学金	× 980,000	980,000	奨学金1名
	教育研究支援金	× 300,000	320,000	学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	△ 600,000	581,000	留学生連絡室協力謝金
	入院見舞金	× 50,000	-	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	300,000	280,491	会報発送費等
	印刷費	280,000	249,263	会報印刷費等
	活動費小計(a)	× 4,610,000	4,309,804	
運営費	消耗品費	20,000	12,474	プリンターインク代
	備品費	20,000	2,154	バザー用スチール棚部品
	連絡室運営費	25,000	25,383	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	50,000	42,854	郵便振替手数料
	その他	10,000	-	
	運営費小計(b)	125,000	82,865	
予備費	(c)	-	-	
繰入金	緊急貸付基金(d)	-	-	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	4,735,000	4,392,669	
次年度繰越金	(A)-(B)	1,251,310	1,037,649	

監査の結果、適正であることを認めます。
平成29年5月30日

監事 川口健一 (M12)

ボリタ

3-3 資料：会計報告と予算

平成29年度（平成29年4月～平成30年3月）一般会計予算

18年
12月30日

東京外国語大学留学生支援の会 平成29年度一般会計予算

《収入の部》

科目	項目	29年度予算額	摘要
前年度繰越金		1,037,649	
会費	一般会員	2,280,000	3,000円×200名 12,000円×140名
	協賛会員	80,000	20,000円×4名
寄付	一般	250,000	
	緊急貸付基金	-	
その他	バザー一等	650,000	バザー収益・行事参加費
	利息	10	受取利息
収入の部合計(A)		4,297,659	

《支出の部》

科目	項目	29年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	370,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	300,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	600,000	歌舞伎見学・東京下町体験ツアー・ふじの国ツアー
	日本文化体験費	300,000	華道・書道・茶道・日本語広場
	日本大学生との交流会	100,000	茶・菓子・昼食等
	その他の交流活動費	150,000	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	教育研究支援金	200,000	学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	300,000	留学生連絡室協力謝金
活動費 (広報普及事業)	通信費	330,000	会報発送費等
	印刷費	280,000	会報印刷費等
	活動費小計(a)	2,930,000	
運営費	消耗品費	20,000	プリンターインク代・コピー用紙代
	備品費	20,000	
	連絡室運営費	25,000	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	40,000	
	その他	10,000	
	運営費小計(b)	115,000	
繰入金	緊急貸付基金(c)		
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)	3,045,000	
次年度繰越金	(A)-(B)	1,252,659	

52
70
20

3-4 平成28年度特別会計 (緊急貸付基金) 報告

REPORT

4. 活動報告

4-1 [春期バザー]

2017年春期バザーへのご協力
ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

今年の入学式4月8日は、東京では桜が満開で、留学生たちはその美しさに感嘆していましたが、今は新学期の授業も始まり、新たな日本での生活を、勉学で多忙な中でも楽しんでいるようです。

4月5日、6日に開催した春期バザーには多くの会員、外語会、近隣にお住いの方々から沢山の多種多様な品物を送っていただき、ありがとうございました。送って頂いた品物は、電気炊飯器、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、アイロン、ヘアードライヤー、洗濯機等の電気製品、自転車、寝具類、机、本棚、文房具、靴、春夏用衣類、着物、鍋、フライパン、ケトル等の台所用品、食器、日用雑貨、お米、レトルト食品等、会場に収めきれないほどでした。

オリエンテーションが4月3日でしたので、新生活を始める用意が出来るように早めにと考えて、4月5日から開催しました。当日は開始時間の20分前に期待に胸を膨らませて大勢の留学生がホールの前に集まり、ドアを開けると同時にパーツと急いで求める品物の売り場へと向かいました。目的の品物を籠いっぱいに入れる学生もいれば、ゆっくり品物を見て、一つ一つ定めしながら籠に入れる学生もいて、みな楽しそうでした。

今回は、新品の電気製品を2,000円から、自転車は1,000円、新品の寝具は500円、その他のほとんどは100円以下、書籍は無料で配布しました。

1	前年度期末基金総額	: 5,223,561
2	今期基金総額(追加繰入れなし)	: 5,223,561
3	前期末貸付残額	: 4,328,400
4	今期貸付額	: 780,000
	12件(授業料 3件、生活費 8件、賠償金 1件)	
5	今期返済(回収)額	: 720,000
6	期末貸付残額(3+4-5)	: 4,388,400
7	損金計上	: 940,000
8	貸付可能繰越金(2-6-7)	: 835,161
9	次年度期初基金総額(2-7)	: 4,273,561

(平成28年4月～平成29年3月) 単位: 円

今年度は、緊急貸し付け基金を開始してから16年目になります。開始時は、160万円だった基金総額が、現在500万円強になりました。その間に、470名以上の留学生が学費、家賃、生活費などの理由でこの基金を利用し、留学生生活を続けてきました。

これもひとえに会員の皆様のご支援のおかげと感謝しております。

留学生の免除申請者の大半が免除の対象者となったため授業料のための貸付件数は減りました。しかし家族の経済事情が悪化し親を助けるために休学して帰国したり、アルバイトの中から親に仕送りをしなければならず、そのため精神不安定になったり等、様々な事情で貸付金を返済する余裕がない学生が増えています。

また、在学中は返済できず就職後に返済の約束をしたものの、就職先が倒産で返済が延び延びになって、連絡がとだえてしまった人もいます。

これまで出来る限り連絡と催促に努めては来ましたが、このような事情で今期は貸付運用指針に基づき、回収が極めて困難と思える940,000円について、損金処理をすることにいたしました。

(貸付担当幹事 梅田由美子)

電気釜、自転車は抽選にしたところ、7台の自転車に30人以上の応募者がありました。

参加した留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものを、バザーでそろえられることがとてもうれしい、こんなに安くてびっくり！信じられない！などと言いながら大きなものから小さいものまで色々を選んで、喜んで持ち帰っていました。

今回も日本人形、うちわなど日本的なものを沢山買いましたが、おみやげにしたいとほとんどがなくなりました。

また、自宅で精米したお米を沢山送ってくださった会員の方が3人いらっしゃいました。1キロの袋に分けて出しましたが、すぐになくなり、お店で買ったのよりずっとおいしかったと留学生が感謝の言葉を伝えてきました。

「これはあなたによく似合うわよ」「これもこれから必要になるわよ」などと、売り場担当の勧めに応じて籠に入れる留学生、子供用の服をたくさん持ち帰った留学生は、みなありがとうございます！と感謝していました。漫画、日本語関係の書籍や絵本、辞書などは殆どなくなりました。

留学生支援の会の担当者たちも、役に立てて良かった、送って下さった皆様のご協力のおかげ、と疲れなど吹き飛ばしてしまいました。

最後に、お皿やコップ、台所用品、若者向きでない衣類、本など残ったものは、近隣のボランティア団体等が引き取り、その他を次のバザーに回すことにしました。

今回から、会期の2日目は日本人学生も歓迎します！と宣伝しましたが、残念ながら参加者がほとんどありませんでした。広報の方法を再考せねばと反省しました。

バザーの収益金は、211,000円でした。

いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくご協力お願い致します。

(幹事 梅田由美子)

4-2 [日本理解]

真壁ひな祭り見学ツアー

1. 日時 2月13日(月) 8:45~18:30
2. 参加者 留学生36名、日本人学生2名、留学生課1名 幹事6名:計45名

<バス車中>

2月の半ば、まさに厳冬の時期ではあったが、朝から快晴かつ微風で勇躍スタート。ただ、定期的に圏央道の一部未開通箇所の開通日2月26日より前の企画であったために首都圏を抜けるまでにかかなりの時間を要し、結果として現地到着は予定より40分程度遅くなってしまった。

途中のサービスエリアでトイレ休憩を取得後は比較的順調になるも、現地に近づくにつれて道路が一般道となるために速度制限もあって遅れも止む無し。しかし、運転手さんの気さくさと巧みな運転により、長時間移動によるストレスは最小限に抑えられたと思う。

<昼食>

到着してバス駐車場を出るとすぐに町全体がひな祭り会場と化した風景が現れた。道の両側に並ぶ種々の店や家屋そのものがこの祭りへの参加者であった。

まずは昼食会場へと急いだ。そこは町一番の料理屋と言われる「すし兼」。この期間中の特別メニューである“ひなちらし御膳”を注文したら、“すいとん”まで付いていて腹ごしらえ完了。急がせたため、もっとゆっくり食事を楽しみたいという留学生には申し訳なかった。

<真壁ひな祭り見学>

参加してくれた学生を8つの班に分け、4名のボランティアガイドの方をお願いして2時間弱の見学をスタート。

旧郵便局を訪ねたところ、最近めっきり見かけなくなった赤いポストとともにその懐かしさあふ

れる建物に見入ってしまった。

続いて、道の左右にあふれる色とりどりで種類も豊富なひな人形の飾りつけにくぎ付けとなる参加者が出始め、班構成は徐々に崩れ気味となっていった。

次に、郷土博物館で真壁の歴史を垣間見た。ここではこの町の紋章的動物でもある“黒イノシシ”の巨大な絵を見ることができた。

ここを出てすぐのところに一個 50 円の“ほかほかコロッケ”という名物を売る肉屋がある。バスの中で「みなさーん、ぜひ食べて！私も絶対食べるから！」とアナウンスしておいたのだが、行ってみるとなんと休業！ボランティアの方に聞くと、前日（日曜日）に見学者で町があふれかえり、材料がなくなってしまったとのこと。結果的に幹事が嘘をついてしまった形になって、申し訳なかった。

次は日本酒酒蔵“村井酒造”。ここでは酒の醸造プロセスを丁寧に説明してもらって、日本酒誕生の一端に触れることができた。一部の奇特な参加者は一目散に“試飲コーナー”へ。実は筆者もその一人であったが、どの銘柄も美味しく美味しくて！かなりの参加者が（筆者は3本も）購入したので、見学・試飲をお願いした幹事としてはありがたい限りであった。

引き続き古くから伝わる潮田家、高久家、伊勢屋旅館などの壮麗なひな人形の陳列を鑑賞しつつバス駐車場へと向かった。途中で茨城新聞記者からのインタビューを受け、2名の留学生が応じていた。

<石材展示場>

特にひな祭りとは関係無いが、真壁町の重要な産業であり工芸でもある石細工の展示場（大倉石材センター）を見学した。ここは小さなものから大きな狛犬のようなものまで展示されていたので、写真撮影対象として留学生に受けていた。ここでは社長様自らのご相手くださった。

筑波山と並んで位置する加波山の岩石の所有権を持ち、ここから良質な石材原料を切り出し

ているようだ。

ここに隣接して真壁町の野菜・果物類販売所がある。一部の留学生はここでお土産を購入していた。最も人気があったのは“焼き芋”であった。購入即これを美味しそうにほうばっていたお嬢さんたちの笑顔が忘れられない。

（幹事 中村）

真壁市への旅

研究生

ペトコスカ・ゾリア

（マケドニア）

私たちは朝、バスで旅行に行きました。聞いたことのない新しい場所に行くことができ、嬉しかったです。その日は、素晴らしく晴れた日でした。

そこは、ひな祭りで有名な所だと聞きました。留学生支援の会が私たちのために全旅程を計画したので、私たちはリラックスしていました。

まず、私たちはとても素敵なランチに連れて行ってもらいました。特別なひな祭り弁当で、とてもきれいでした。レストランのオーナーは、レストランの歴史とひな祭りの意味を説明しました。

その後、私たちは町の周りを散歩に行きました。路地にはおもしろいお店がいっぱいあって、すべてのお店にひな祭りの人形がありました。店員たちは非常に丁寧に素敵でした。彼らは私たちに人形を見せて、歴史を説明しました。とても感動的な経験でした。

次に醸造所に着いたとき、学生はとてもよろこびました。新鮮な酒を味わい、酒の作り方を学ぶ機会がありました。たくさんの学生はおみやげとして酒を買いました。

酒の試飲の後、私たちは地元の博物館を素早く見に行きました。私たちは多くの歴史的な人工物を見ました。

私とサイモンは新聞のジャーナリストと話し、私たちの感想を説明しました。太陽の光がとても素敵だったので、私はたくさんの写真を撮りました。

旅行の終わりに、私たちは非常に興味深い雛形の人形を見ました。人形はすべて鼠で、結婚式のために服を着ていました。これは本当に面白かったです。同じ場所で本当のカタナを持って、写真を撮る機会がありました。

何人かの学生が、ボランティアガイドへの別れを言ったので旅行が終わったと思いましたが、もう一つ最後の場所がありました。私たちは石屋に行きました。

私の貴重な記憶は、おじいさんが私たちに焼き芋を与えたことでした。私はそれを期待していなかったのですが、うれしくて驚いた。それ以来いつも東京で売られている焼きたてのサツマイモを見ると、これを思い出します。

【↓真壁のお店で】



4-3 [鎌倉バス旅行]

鎌倉の歴史を学び、懐石料理を味わう

1. 日時 3月21日(火) 8時~18時
2. 参加者 留学生27名 日本人学生4名
鎌倉在住会員2名 幹事6名:計39名
鎌倉ガイド6名

当日は雨天で、中央線が止まったりしたため、学生の集まりが悪いのではと心配した。結局、留学生4名がキャンセルしましたが、日本人学生4名は全員参加、東京の幹事が6名、合計37名で8時50分に新宿を出発した。バスの中ではバスガイドさんの上手な案内を聞いたり、自己紹介をしたりしながら鎌倉に10時10分に到着。

円覚寺で、鎌倉在住幹事2名、ガイドの方々6名と合流した。

午前中、学生が6グループに分かれ、ガイドさんの案内で円覚寺、鶴岡八幡宮を見学した。

12時20分、ホテル「わかみや」に到着、昼食を取る。和室の広いテーブルで、刺身、海産物の鍋料理等、ミニ会席料理を味わった。ほとんどの学生はおいしい食事だったと満足した様だった。ただ、しらすとすり大根の酢の物は、目玉が気になって食べられない学生もいたようだ。

雨の中数名の学生が海を見に出かけたが、楽しみにしていた波と戯れることが出来ずに戻ってきて残念がっていた。

午後1時20分にホテルを出発、長谷寺に向かった。下境内にある妙智池と放生池を囲むように木瓜、桃、白木蓮など春の花が咲き乱れる山道を上って、上境内にある観音堂の長谷観音にお参りをした。

その後高德院に行き、有名な鎌倉の大仏、阿彌陀如来を訪ね、集合写真を撮った。大仏様の大きさに驚き、優しいお顔に癒され、ガイドさんに大仏様にまつわる話を面白く聞き、お庭を



[傘の花咲く鎌倉の集合写真↑]

見たりしているうちに定刻の4時になってしまった。

帰りのバスは渋滞に巻き込まれ、新宿に到着したのは6時過ぎであった。

参加した学生たちは、鎌倉の歴史を学び、おいしい料理に舌鼓をうち、互いに交流出来て有意義な、素晴らしいバスツアーだったと感謝の言葉を残して別れて行った。別の季節に訪ねたいと思った学生も多かったようだ。(幹事 梅田)

4-4 【大国魂神社くらやみ祭り】

運よく野口仮屋を特別見学できた

1. 日時 2017年5月4日(木)10時~13時30分
2. 参加者 幹事3名、留学生18名、
日本人学生2名、市民3名、
府中観光情報センターガイド9名：合計23名

赤組(英語)、みどり組(英語)、黄色組(英語)、赤組(日本語)の4班に分かれて次の見所を回った。

- ①本町公会堂 ②お旅所 ③野口酒造 ④野口仮屋 ⑤大国魂神社 ⑥大イチョウ ⑦東照宮 ⑧松尾神社 ⑨神楽殿(菖燈) ⑩フォーリス

好天に恵まれ、イヤホンガイドを使用しながら案内した。

「野口酒造」での試飲が出来た。そのうえ酒屋の主人が「野口仮屋」の鍵を開けてくれたので、特別に中を見学できたことに一同感激した。

本殿前に子供神輿が到着し留学生に担がせてくれた。ワッショイと掛け声をかけて楽しんだ。

フォーリスで13時半に解散し、お祭の振袖姿の子供たちと一緒に写真を取った。

(幹事 杉森)



[↑お祭りの振袖姿の子供たちと一緒に]

くらやみ祭りのアンケート結果

(一部を掲載、順不同、原文のまま)

1) レバノンの女子留学生

たのしかったです！ It was my first matsuri and everything was great! ありがとうございます！

2) スペインの女子留学生

It was very interesting to meet the culture. The guides were very nice! 来てうれしいよ

3) ギリシャの女子留学生

おもしろくて、たいへんたのしかったです。ほんとうの日本のせいかつにさんかできた感じです。ありがとうございました。

4) タイの女子留学生

The Mantos are very beautiful.

5) ボスニアの女子留学生

今日とてもたのしかったです。ありがとうございました。たくさん、べんきょうしました。日本のれきしが大好きです。

6) イタリアの女子留学生

とても楽しかったです。もらった情報はとても

面白かったです。ありがとうございました。

7) ロシアの男子留学生

楽しかった。いろいろな情報を知るようになった。もう一回参加したい。どうもありがとうございました。

8) ロシアの男子留学生

とても楽しかった。まつりとじんじやに関するせつめいは面白かった。ありがとうございます。

9) イタリアの男子留学生

本当にいい経験だった。まつりはとてもきれいで、楽しかった。おすすめします。

10) ブラジルの男子留学生

おもしろくて、げんきなまつりです。とても楽しくてきれいです。

11) キルギスの男子留学生

At first I want to thank Ryugakusei Shien-no-kai for such opportunity. Today I learned a lot of new things about Japanese culture and especially religion. Our guide was pretty good and explanation was easy to get.

5-1 [ホームステイ]

マインドフルな留学生ツアー

沼津市在住
松下宗柏

今回の「ふじのくに留学生ツアー(冬)」は、例年、静岡県が制定した「富士山の日」、すなわち2月23日を中心に22~24日に行われるのが恒例だった。しかし東京外大のスキー合宿と重なったため3月1~3日の日程で実施されることになった。

その結果、朝霧高原で行われる特別企画「富士山に向かって歩こう」に参加することが出来なくなった。問い合わせた来たる主催者も残念がっていた。留学生の参加によって華やかな催しになるからである。

協力してくれるホストファミリーの中には、年間予定の一つとして楽しみにしていたが、3月では不都合で残念という家庭もあった。しかも、あいにく悪天候のために富士山は雲に覆われた3日間となり、いつもとは一味ちがうツアーとなった。

留学生の顔ぶれもいつもと違っていった。アジアの留学生はラオスからの1人で、他はアルゼンチン、ブラジル、チリ、エジプト、イラク、ルーマニア、セルビア、マケドニア、ウズベキスタン、フランス、ドイツ、オーストラリア、14か国と多彩だった。所属も ISEP、MEXT Research、PCS と多種多様で、15人中5名、参加者の3分の1が男性であるのも珍しいことだった。留学生間の会話は英語であったのも初めてだった。

さて、富士山も見えない、朝霧高原でのウォーキングもない、これはどうしたものかと案じたが、ちょっと工夫した結果、まさに「災いを転じて福となす」、一味違ったツアーとなった。きっと留学生たちにも喜んでもらえたように思う。

時間的に余裕が出来たので、今回初めての試みとして、富士宮市の富士本宮浅間神社に正式参拝をした。宮司さん、巫女さんも温かく接して下さり、親切に解説してくれた。拝殿では、開式の太鼓、お祓い、御神楽、祝詞(のりと)の奏上、お神酒拝受と神道の伝統的な作法を体験したが、厳かな雰囲気一同神妙な面持ちだった。

ウォーキングの代わりに、熱帯植物園に小鳥が飛びフクロウのショーがある「富士花鳥園」に案内したが、「まるでパラダイスだ!」という声が上がった。

小雨の中にもかかわらず、ツアーの人気第一のスポット、白糸の滝には大感激の様子だった。

当寺でお世話した男子3名、女子3名(うち1人は門前の家)に、近くにあるスーパー温泉銭湯「ざぶーん」に行くのはどうかと聞くと6人全員が希望した。以前は、公衆風呂を恥かしがる人もいたが、入浴後、付属レストランでの楽しそうな様子を見て、留学生たちもずい分と日本の庶民文化に馴染むようになったものだと微笑ましく思い、時の流れを感じた。

3日目の朝、時間の余裕があったので散歩しよう、周辺のお寺巡りしようか、近くの海岸に行こうかと尋ねると、これまた全員が海岸希望。私にとっては日常的で気にしない海岸が、大陸育ちの彼らにはとても魅力的で、渚を歩いたり走ったり、小石を拾ったり海に向かって投げたり、童心に帰っておおはしゃぎ、古い和風の釣舟に乗り七福神の気分でそれぞれにポーズをとって写真撮影した。また、女性二人が滞在したお宅では、着物を着てファッションショーをしたという。二人がとても幸せそうな笑顔をしていたのが印象的だった。

2日目の夜に書いてもらった感想文には――。

「この2日間、おもしろくて楽しかった。一番好きなことは瞑想だった。瞑想しながら、体と心のために瞑想がすばらしいことなので毎日しようと思った。丹田の説明のおかげで色々学んだ。

茶道も素敵な体験で宇宙の概念は本当におも



[3月2日 富士本宮浅間神社 ↑]

しろいと思った。それに抹茶はととてもとてもおいしかった」

「このツアーでよかったことが2つあります。1つ目はホームステイの経験です。お母さんとお父さんの作ってくれた美味しい食事を食べるだけでなく、家族といっしょに火燵でテレビを見ながら話すことが、すごくよかったです。この家族のやさしさが感じられました。2つ目はお寺での坐禅です。短い時間だったけど、すごく面白かったです。そして、息を大切にするようになりました。とても大事な勉強になりました。これから10分でも坐禅をやりたいと思います」

「まわりの自然は言いようのないほどきれいです。特に白糸の滝に来た時には落ち着いた気持ちになりました」

——とあった。

いつも勉強や情報の洪水の中で脳を使っぱなしの留学生たちにとって、脳を休め、生命力や感性を養う、童心にかえって無邪気になる、いわば、「マインドフルなツアー」になったのかもしれない。ツアーの在り方についてもヒントになった。自然体でゆとりをもってと。

VOICE

6. 留学生の声

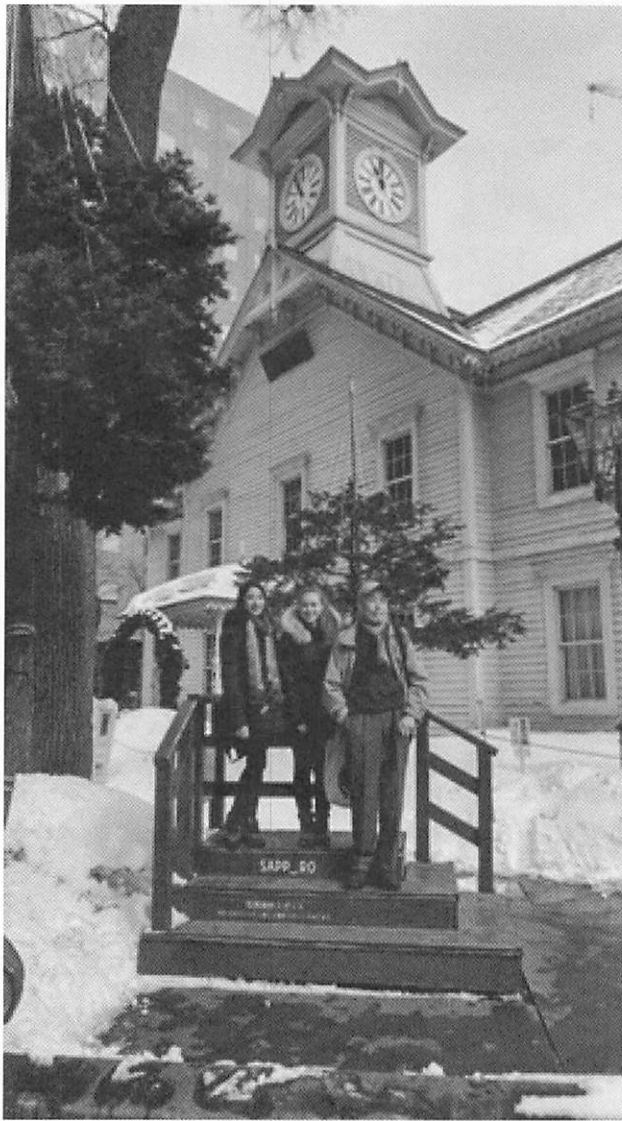
6-1 [ホームステイ]

Home stay in Otaru supported by ISSA

ISEP

Irimia Florentina(ルーマニア)

From 23rd of February to the 27th of February, Irimia Florentina from Romania and Peryhan Essam from Egypt went to a home stay in Otaru city, Hokkaido prefecture. The trip was supported by the exchange student division and Ms. Umeda Yumiko who introduced us to a Tokyo University of Foreign Studies' year-1964 graduate, Mr. Mochizuki Masami. Mr. Mochizuki, who has been living in Otaru for 10 years now, has warmly welcomed us in his beautiful pumpkin shaped house for



4 days. Mr. Mochizuki was working in a travel agency, thus he is fluent in English and has hosted exchange students for the past three years. Since we arrived late in the afternoon, the first day was well spent in Otaru city, namely the Tengu Mountain, where we took the ropeway up to the summit; we admired the beautiful scenery of Otaru and visited the ski museum and Tengu museum both located on top of the mountain. Then we had home smoked Hokkaido limited Russian fish and the famous Hokkaido blue beer. Mr. Mochizuki was so nice to prepare us a Japanese style bath (Ofuro).

The next day, we had a one-day-visit to Sapporo. Before lunch we visited the TV tower in Odori Park, the weather was good and sunny and we could see the whole city and mountains. After that, Mr. Mochizuki took us to have lunch in the Sapporo Grand Hotel. After lunch we went to Nakajima Park, where we visited the Houheikan, a building which served as a agricultural school and hotel and which has been visited by the Meiji, Taisho and Showa emperors. It has been designated as an important cultural asset in recognition of its importance to its history. Then we visited the Clock Tower which has been a part of the military drill hall. Also, we went to the former Hokkaido Government Office Building or the Red Brick Office. It's Hokkaido's best known symbol and the red star on its wall is the symbol of the Hokkaido development commission. In the evening, we helped in making a delicious pumpkin soup. We took our bath and got ready for the next day.

On our third day, we had a half-day cross country ski experience, Mr. Mochizuki has started skiing three years ago and he is quite skilful at it. Then we went to eat fresh seafood at a local market. From the local market we also bought lamb for the famous Hokkaido Jingsukan dish to make it at dinner.

On the fourth day, we had a half day visit to the Asarigawa ski field and hot spa (Onsen) where we had a once in a life time experience where we enjoyed the snow fall while soaking in hot water. After the spa we went to a famous local ramen shop and went to Otaru General Museum and Railway Museum. After that, we went

souvenir shopping in downtown Otaru and the Otaru Music Box Museum and the Marchen square that is known for its European designed buildings. We had Hokkaido fish paste cakes and Otaru Wine and Rokkatei sweets that is well known in Hokkaido.

On the fifth day we woke up early to catch the flight back to Tokyo, Mr. Mochizuki was nice enough to drive us to the station and he looked up the train schedule for us to ensure we arrive at the airport on time.

It was a very nice trip! Mr. Mochizuki was very friendly and talkative. We felt like home during our stay. We did sports and origami and tried solving the Rubik cube. We also received lovely drawings Mr. Mochizuki drew himself and bottles of authentic lavender essence oil from the Tomita farm.

6-2 [留学生活]

留学生活、ありがとう

ISEP 修了

オン・ソカ(中国)

半年間の留学生活はあっという間に終わった。

その中に、喜びもあれば、悲しみもある。孤独もあれば、友達と一緒に楽しくて過ごした時間もある。今から振り返って心の中で感動いっぱいある。その感動を持って日本語の勉強の道の前に進もうと思う。

記憶の箱を開けて見ると、色々な重宝がある。例えば、外語祭で打ち上げられた花火や、華道教室でもらったバラ、書道教室で大学院に入るために自分を励まして書いた「入学を祝う」、茶道教室で自分で作ったお茶の味を全部重宝として記

憶に置いた。

そして、この半年を通して自分の成長も感じた。一人暮らしの生活は独立の能力を身につけさせた。一人で夜行バスに乗って京都に行った。夜は民宿に泊まった。昼は色々な世界遺産を見た。一人で新大久保の焼き肉の食べ放題に行った。一人で江ノ島や横浜の海を見に行った。

本来は一人では旅行することが想像できないけれど、日本で全部一人で試した。内向的で臆病者の私一人でも色々なことができることによりやく気がついた。今から見れば、留学生活はいいなと思う。以前の自分より、進歩したから。すごく貴重な経験だと思う。

留学生の友達も側にいる。夜3時まで雑談したこともある。その時の笑い声は多分永遠に心に残ると思う。別れる時、贈ってくれたプレゼントを見ると、その時の楽しさを思い出す。本当に懐かしい。ありがとうね!

そして、JLCの授業で、国々から来た留学生と交流して、この世界の広さが分かった。数種類の言語が話せる留学生がいっぱいいる。数ヶ月しか日本語を勉強して来なかった学生さんが700レベルの授業をとっている。東京外大でこんなに素晴らしい学生さんに出会ったのは私の幸せだと思う。彼らの言語を熱心に学ぶ姿を見て感心した。自分も頑張らなければならないと思う。

外語祭の時、すごく寒かったという印象が深い。ダンスクラブの学生さんが短いスカートを着ていた。寒かったけど、観衆のために笑顔でダンスをしてくれる姿にも感心した。

日本人の先生が皆優しく親切にしてくれたことにも感動した。授業で日本語を教えてくれる他に、社会に関する問題への考えも私達とシェアしてくれた。本当にありがとうございました!

最後の総合日本語の授業で、伊集院先生の話にも感動した。先生は「皆さんが日本の文化や社会が分かる人です。日本にとっては大切な人材です。今後の活躍を期待しています。」とおっしゃった。その話を聞いて、心から暖かさが感じた。だから、私は将来も頑張りたい、中日友好のために、何か

役に立ちたい。お互いの理解を求めめるために頑張りたい。

留学生活が終わったけど、その思い出を永遠に大切にしたい。自分の成長や他の人からもらった感動は全部重宝として大切にしたい。

留学生活、ありがとう！東京外大、ありがとう！先生、ありがとう！友達、ありがとう！
もしまた機会があれば、また会いましょう！
もしまた機会があれば、また会いましょう！

6-3 [留学生活]

留学生支援の会への感謝

大学院修士課程

リナルディ (インドネシア)

私は7年前に初めて憧れた日本に留学ができて、日研生という1年だけの国費プログラムを通じて東京外国語大学で学びました。日本のポップ・カルチャーがきっかけで日本文化への関心を持ち、日本に住んでみたい、勉強したいということが人生の目標の一つになりました。

先に東京外大に留学したインドネシアの同期から、東京外大の素晴らしさを知って選びました。

着いた頃の初めはワクワク感と共に不安もありました。人生初めて外国での一人暮らし、親戚もなく、右左が全く分からない状態で、しかも日本語もまだうまく話せない状況の中、これから一年間生きなければならないという現実の重さを感じていました。

同じ留学生のクラスメートや、日本人学生の友達、そして先生の方々が優しく接してくれたお蔭で、一年間はあっという間と感じました。ほぼどれにも良い思い出ばかりでした。そして、大きな支援の一つは東京外大の留学生支援の会からでした。

私が充実した留学生活を送ることができたのは留学生支援の会が大きな役割を果たしているからです。着いた頃はお金をあまり持っていない

のに、生活用品等にお金がかかります。その時に支援の会が開いたバザーで、安い値段で必要なものを揃えることができたので助かりました。

日本の文化を更に味わうためにホームステイプログラム等にも参加して、私にとって人生初めて「和風家族ライフスタイル」を味わうことができました。学校で教えられない、日本の家族や暖かさ、おもてなし文化など身近に感じることができました。その経験からますます日本の良さに惹かれていて、現在に至ってなお、日本人と結婚したいという願望があり、日本の良さを自分のものにしたいと考えています。

また、私たち留学生は金銭面の補助として様々なアルバイトなどを紹介してもらいました。小学校との交流会などでは、日本の子供たちの教育ニュアンスなどについて学べると同時に、お金も頂けて、まさに一石三鳥、とても良いアルバイトでした。

他にも日本の名所へ安い値段で旅行を提供してくれたことは、留学生にとってすごくお得なイベントでした。東京周辺の歴史的な背景が強い所から伝統文化が強い所まで、様々なイベントを安価な参加費で見て回ることができて、本当に充実した留学生活を送ることができました。

日本伝統ミュージアムや、能、国会議事堂など、そしてスキーから着物のイベントまで多様な活動を用意して、私たち留学生を日本のおもてなし文化や、そして大学以外の場所での経験をサポートしてくれて、本当にありがとうございます。

初めての留学はとっても楽しく過ごせて、二度目の国費試験を頑張って受けました。一回だけじゃ物足りなく、2013年に再び大学院生として東京外大に留学しました。そして、今年の3月の卒業式にはちゃんと袴姿で出られて、最後の最後までとってもサポートしてくださって、本当にありがとうございました。

お蔭様で、もう一つの夢も達成できました。支援会のサポートがあるからこそ、私の留学生活はとっても満足できる、充実した、有意義なものとなりました。日本の良さ、確かに頂きました。

6-4 [文化教室]

囲碁の授業

I S E P

ザハーリエワ・エレナ(ロシア)

私は日本語を勉強し始めた時、囲碁という日本の独特のゲームに興味を持ち始めました。囲碁の選手は偉大なボードに白い石と黒い石をあちこちに置いて戦います。私はそれを見て、不思議に思いました。

何度も見ても、考えても、ゲームの目的は理解できませんでした。自分で囲碁のルールを読んでみたら難しくなさそうと思ったので、インターネットでコンピュータと囲碁をやってみました。一番簡単なレベルだったのに、何回やってみても訳が分からないまま負けてしまいました。何と言っても、囲碁のルールは簡単かも知れないけれど、やり方は複雑です。

東京外国語大学に来て、ブラジル人の友達と一緒に松本先生の囲碁の授業に通い始めて、ゼロから囲碁が理解できるように頑張りました。最初に、囲碁の礼儀を覚えました。ゲームの前に選手はお互いに必ず「お願いします」を言って、腰を屈めます。そして、黒い石からゲームを始めます。

私たちは初心者ですから、始めは小さいボードで五つの石を「星」にして、先生と一緒に囲碁をやってみました。毎回やってみたら、段々分かるようになってきて、囲碁を楽しめました。

松本先生のおかげでたくさんの大事なことを知りました。囲碁をやる人は石を置く前によく考えて、欲張って相手の石を攻めず、自分の石を守るようにゲームするべきです。状態がダメになったら、自分の石を諦め、他の場所を探して攻撃するべきです。相手の石は強くならないように、相手の石を切るようにするべきです。

囲碁には想像力がとても重要です。石を置いたら次に相手がどうするか、そして後で自分はどうかと考えるければなりません。囲碁をやれば、絶対により知育になると思います。

皆さんも、ぜひ、東京外国語大学国際交流会館で松本先生と一緒に囲碁の授業を取ってみてください!

ACTIVITIES

ご入会・ご寄付、誠にありがとうございます。

新規加入者

■一般会員(敬称略)(平成29年1月27日~6月20日)

青島茂富	赤澤陽子	浅井健司	跡部いずみ	荒井学
飯田健一	家城靖代	家田友紀子	池上隆藏	石神潤
石川文俊	石山恒貴	岩井利一	岩崎隆優	上嶋亨
上原徹	上原美代子	鶴飼巖	宇高不可思	内村駿太郎
大北洋治	大久保忍	大幸岳志	大竹正己	大野昭伸
大野貴也	大森隆暉	大山晃一郎	尾形武夫	尾形嘉博
岡本珠美	小木曾朝子	小倉賢嗣	小椋宏幸	尾崎正治
各務千奈美	金谷康男	金子宣之	神岡和彦	軽部昭宏
川上皓輝	川崎繁美	川添千絵	神田美樹	菊岡由佳子
菊池智	北村午郎	木村かほる	木村昌彦	京増久夫
久保田和也	久保礼子	栗栖朝帆	黒坂元恒	鴻野昌子
河野充博	古賀義之	小島昌尚	五重日修	小森弘治
近藤洋	紺野範明	斉木正人	齊藤邦生	斉藤純子
佐伯里夏	坂入潤一	坂部和行	坂本多映	坂本直子
櫻井佳世	櫻田健一	佐々木和顕	佐藤順一	佐藤高立
佐藤敏行	塩澤久美子	塩澤真生	重原志帆	柴田昌平
志村弘太郎	白井保則	菅野雅彦	鈴木恵美子	鈴木孝志
鈴木千景	鈴木伸幸	鈴木弘子	角谷茉耶	瀬川裕司
高岡佳代子	高田賢一	高橋智美	瀧上剛克	滝沢侑也
田口ひかり	田尻千恵	田代真琴	田中研志	田林葉子
竹馬李星	辻村雅行	手塚礼奈	鳥巢滉介	内藤勝雅
中井敏生	長崎祐司	長瀬啓子	長瀬好美	中谷将大
中田宏高	中富節子	長友飛鳥	長門裕二	長野裕巳
南波悟	西川満則	西依節雄	楡木宏史	任雅潔
根形奈々	橋本早苗	橋本匠	花輪のぞみ	林峰雄
原早貴子	原澤俊一	東野真	東野美恵子	美谷島和浩
平野孝裕	福田宏美	福原順子	藤井麟太郎	藤田恭子
藤巻ゆう子	武藤俊昭	星田大輝	細羽早苗	前島康樹

増田淳 増田直彦 松為幸子 丸島彩子 三浦直子
 三田龍彦 三田裕之 光永万結子 光行威 養口和之
 見矢木堅二 宮北直子 向井均 武藤巧 村井雅輝
 村上隆子 村松誠五 目黒達之 森敏和 森泰世
 諸星益美 安田玲子 谷中美渚 山田燕子 山田総一郎
 山本純子 山本良宗 横井明美 横田利夫 吉田紗弥
 吉光弘一 渡邊研三郎 渡邊佐和子

会員寄付者

■一般寄付(敬称略)(平成29年1月27日～6月20日)
 安藤浩行 池田恵利子 五十幡圭右 大塚定 小泉和生
 佐藤桂子 佐藤順一 中村博 吉光弘一

※異体字のために正しく表記されない場合がございます。
 ※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

6月20日現在
 会員数：1,141名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいますようお願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力をお願い致します。

一般会員：年会費 3,000円
 協賛会員：年会費 20,000円

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成29年5月14日(日)

平成29年6月18日(日)



秋期バザー

秋期バザーを開催いたします。

開催：9月27日(水)～9月28日(木)

場所：国際交流会館2号館交流ホール

バザーの開催に向けて、バザー用品をご準備、ご手配いただきたくお願いを申し上げます。

バザー用品受付期間

9月19日(火)～9月24日(日)

お送りいただきたい物品

- 各種辞書など
- 台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)
- 日常生活用品(自転車、鏡、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品、保存のきく食品など)

※一人でも持ち運びが不可能な大型電気製品については、電話で042-330-5183(梅田 火・水・金のみ)まで事前にご連絡をお願いします。

※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば若い学生向けの秋・冬物を希望します。

送付先 東京外国語大学留学生課気付
 東京外国語大学留学生支援の会
 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
 TEL:042-330-5183

送料 宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。
「午後便」をご指定下さい。

連絡先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
 東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)
 TEL:042-330-5183/5759
 FAX:042-330-5189

©Copyright 2017, TUFS International Student Support Association

TUFS 留学生支援の会 会報 | No. 55

東京外国語大学 留学生支援の会

No.56
年3回発行

Since 1999

会報

会員の皆様、ホームステイやバザーにご協力ありがとうございます。
留学生から感謝の言葉が多数届いております。
今年も「国際交流の夕べ」(12月8日開催)で留学生と交流しませんか。

Pick Up
Event 2017

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。
興味のある方、幹事の役割につきまして当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

INSIDE

FOCUS

1. ご挨拶

新3役の課題としての「棲み分け」

留学生支援の会副会長
勝又美智雄
(国際教養大学名誉教授)

鮎澤先生を会長に、私を副会長に、というのは中嶋洋子前会長の2年前からの腹案だった。鮎澤先生も私も中嶋嶺雄先生(1936~2013)に引っ張られて、2004年秋田に国際教養大学が開学した時から教授として務め、2016年春、ともに名誉教授第1・2号として退職した。

中嶋先生が東京外国語大学大学長(1995~2001)時代に「留学生支援の会」を立ち上げ、その初代会長を洋子夫人がボランティアで引き受けて約20年間、活動を広げてきたことは私たちも承知していた。そんな中嶋学長の遺志を継いだ洋子夫人に直々に頼まれば、二人とも断るわけにもいかない、ということだった。

振り返れば、東外大の留学生については私も浅からぬ縁があった。東外大英米語科を卒業して日本経済

Page 1.	1. ご挨拶	新副会長 勝又美智雄
		新副会長 岡田昭人
		前会長 中嶋洋子
		前副会長 笹岡太一
Page 4.	2. 活動報告	
	2-1	歌舞伎鑑賞
	2-2	秋期バザー
	2-3	七夕茶会
	2-4	鎌倉旅行
Page 8.	3. ホームステイ&ホームパーティー	
	3-1	ふじのくに留学生ツアー
	3-2	浦安市のホームパーティー
Page10.	4. 留学生の活動	
		サッカー漫画のアラビア語訳
Page11.	5. これからの活動	
		国際交流の夕べ
Page12.	APPENDIX	
		笹岡太一さんの絵ガイド作品

新聞社の記者になったのが1972年。ロサンゼルス支局長を終えて1990年秋に東京本社に戻って間もなく、恩師の中嶋先生(当時は教授)から「外大もこれから積極的に留学生を増やしていくが、日本の政治・経済・歴史・文化などを幅広く英語で講義できる教員がいない。やってくれないか」と頼まれた。

上司と相談し、半年間だけ、毎週金曜日の午後なら、という条件で引き受け、1992年から丸10年間、西ヶ原キャンパス時代から府中キャンパスへ、ISEPプログラムの非常勤講師として留学生に日本事情を講義した。欧米だけでなく、東南アジアや南米からの留学生たちと授業後も議論し、楽しい思い出ばかりだった。

その経験が生きて、国際教養大学では図書館長を務めると同時に、主に3、4年生を対象に米国事情、日米関係論、大学院でジャーナリズム論を教えてきた。

さてそこで今年9月下旬から10月上旬にかけて「支援の会」の会合に初めて出席し、立石学長に挨拶し、大八木留学生課長らから事情を伺った。そして驚き、感心したのは、毎年、実に多彩なプログラムを実施していることであり、そのほとんどが「留学生支援の会」を支える人たちの熱心なボランティア活動によって成り立っていることだった。

それが洋子会長と笹岡太一副会長の明快で優れた指導力と、留学生課に籍を置いて長年、事務局長役を担って献身的に実務をこなしてきた梅田由美子さんの功績が実に大きいこともよくわかった。

「留学生支援の会」を設立以来牽引してきた「トロイカ体制」の3人がそろって退任されるということは、これまで3人の力に頼っていたことができなくなることを意味する。そこで、新3役(鮎澤・勝又・岡田)として何ができるか、何をすべきかを原点から考え直す時期だと思った。

幸い、20年前と大きく異なって、大学事務局の留学生対応策も相当充実し、留学生課の事業とのダブリが増えているようでもある。そこで大学が業務としてやるべき留学生事業と、それではカバーできない部分を整理して、会としての活動を重点的に工夫するという「棲み分け」が今後の課題ではないかと感じている。

留学生の願いを実現させる一助に

留学生支援の会副会長
岡田昭人

大学院 総合国際学研究院 教授

この度、留学生支援の会副会長に就任致しました。皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は1999年4月に東京外国語大学に赴任しました。かれこれ20年前になりましたが、留学生支援の会が発足したのもちょうど同時期であったと思います。それ以来、大学では主に交換留学プログラム(ISEPTUFS)を担当し、毎年世界中の国々の協定校から留学生を受け入れて日本文化などを教えています。

教室に入ると留学生の笑顔があふれ、様々な言語が飛び交う光景が広がります。ISEPの授業は日本人も同じ教室で学んでいます。最初は緊張した様子の日本人学生たちもいつの間にか留学生たちと打ち解け合い、楽しい雰囲気の中で学ぶようになります。授業は英語で行いますので、欧米圏の大学からきた留学生はここぞとばかり積極的に発言しクラスをリードしています。

また、毎年開催される夏の京都・奈良への研修旅行、冬のスキー研修にも何度も参加しました。

留学生支援の会の取組みでは、赴任して早々留学生スピーチ大会の司会をさせて頂きました。毎年12月に開催される留学生歓迎パーティーではバンド演奏を披露させて頂くことや、留学生が演じる創作時代劇を楽しんでいます。

私の東外大での思い出の大部分は、留学生と一緒に築いてきたといっても過言ではありません。ISEPTUFS、学部・大学院、そして研究生を含めると、もう何百人の留学生たちと交流し、それぞれの時期にたくさんの思い出ができました。

今でも卒業した多くの留学生たちとfacebookやSNSを通じて交流しています。なかにはもう結婚し、ご家族や子どもさんの写真を掲載している学生もいます。皆の幸せそうな姿を見てとても懐かしく、また嬉しく思っております。その一方で、彼らの国々で起こった災害やテロのニュースを見るたびに心配になることも。

私も 20 代の頃アメリカとイギリスで勉強した経験があるので、様々な状況で留学生の気持ちがよく分かります。特に短期留学の場合は、日本人との交流を強く期待しているでしょう。留学生支援の会がそうした留学生の願いを実現させる一助になれるよう、今後はその一員として努めて参りたいと思います。

最後になりましたが、これまで留学生支援の会から多くのゼミ留学生が経済的支援を頂き、学業を無事修了することができました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

本当に有難うございました。

会長退任の挨拶

留学生支援の会 前会長
中嶋洋子

すでに会報 55 号をお読みになった方は、鮎澤孝子先生が新会長を引き受けてくださったことをご承知のことと存じます。

ついては、私に会長退任の挨拶を書いてほしいと依頼がありました。

一緒に当会の役員(副会長)を務めてくださった几帳面な笹岡太一さんが、1999 年(平成 11 年)に当会が発足したことを書いています。

私が初代の会長を引き受けさせていただきました、留学生課の鈴木課長、梅田由美子さんも加わって当会がスタートしました。

当初はなにをどうしたらよいのか戸惑うことばかりでしたが、徐々に日本人学生、留学生のためにどんな事業をすればよいのか考え始めました。各種イベントの実現に取り組みました。思うようにいかないことも多々ありましたが、経験を積むうちに次第に学生たちを引き込んでいけるようになりました。

そしてこのたび、笹岡さん、梅田さん、私の旧 3 役が一緒に退任することにしました。当会に新しい風を吹かせたいという思いからです。

とはいえ、すべてから手を引くことは私自身どこか

寂しく、今後も折に触れ活動にも参加したいと思っています。

皆様のご理解を賜りたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

留学生支援の会とともに 18 年

留学生支援の会 前副会長
笹岡太一

留学生支援の会は、1999 年 6 月に、当時の学長中嶋嶺雄先生の「東京外語会会報誌」上での呼びかけにより、設立されました。

私はそれ以前から、教育における国際協力の仕事に携わっており、留学生支援は大変意義ある事業と思っていましたので、早速会員として入会し、副会長として中嶋洋子会長を補佐し、会の運営にも関わってきました。それから 18 年余り経ち、加齢のこともこれあり、このたび退任することになりました。

この間、留学生支援の会は、皆さんご存知のように、留学生を経済援助したり、日本文化を理解してもらったり、留学生・日本人学生交流会を開くなど、心のこもった多彩・多様な行事を展開してきました。

このような行事の成果は一概には言えませんが、本会の会報誌の「留学生の声」欄に見ることができると思います。多くの留学生が感謝の意を表していますし、私が特に印象に残った意見を引用すると次の通りです。

- 1) 支援の会の行事は遊びではなく、日本の文化・社会の勉強です。
- 2) 自分ではできない経験をすることができました。
- 3) 新しい発見をする機会となりました。
- 4) 日本人学生で、鎌倉など行ったことがない人もいますから、一緒に参加してもらってください。

支援の会の諸行事は、幹事の皆さんのご協力によって遂行されております。私もその一員ではありましたが、ご多忙な皆さんの支援の会へのご協力を多といたすとともに、会の一層の発展をお祈りいたします。

※鮎澤新会長のご挨拶を前号(55 号)に掲載しました。[編集部]

REPORT

2. 活動報告

2-1 歌舞伎鑑賞教室の報告

日時:2017年6月11日(日)

場所:国立劇場

参加者:留学生41名、日本人学生9名、
外大事務局2名、幹事等9名(合計61名)

歌舞伎『毛抜』を見た感想

大学院総合国際研究科日本語専攻1年
サイ ギョウイ
(中国)

去年、日本文学史を勉強したとき、歌舞伎の話がい
くつか出た。実は日本に来る前に、いいえ、日本語を
勉強する前にテレビや雑誌とかで歌舞伎について少
しを知ったが、その時自分が歌舞伎に対するイメージ
はなんか顔を真っ白に化粧して、何か難しいことを演
じている、それだけだった。

で、日本語を勉強し始めて(そういってももうすでに
5年前の話だ)、歌舞伎や能狂言などを具体的に先
生に教えられ、だんだん日本の伝統芸能に興味を持
つようになった。

今回は留学生支援の会のおかげで、歌舞伎十八

番の『毛抜』を観ることになったのだ。『毛抜』はだいた
い糸寺弾正という人を中心に、小野家に起きた一連
の事件を解決する内容で、探偵小説のような話だ。

『毛抜』を見て、とても衝撃を受けたのは中村梅丸さ
んが演じた大野家の姫の錦の前という役だ。歌舞伎
の女形は前からすでに知っているけれども、実際に現
場でそれを見たのは今回が初めてで、なんだか歌舞
伎役者はすごいなあと感じた。

普段は男なのに、役を作っているときは完全に女の
様子になって、どんなに細微の動作でも女ならではの
振る舞いをちゃんと表現している。しかも、重い服を着
て、頭に複雑な鬘をかけながら、役を作るのが力強い
男性ではないと、なかなか大変なのだろう。だから、実
際に生で観て、男性が演じる女形という日本の独特な
芸術(もちろん、中国の京劇においても女形が存在し
たが、現在ではその役を女優が行っている)の魅力を
感じた。

ただ2時間ぐらいで終わって、内容がそんなに難し
くない芝居であるけれども、役者さんたちは舞台に立
つ日まできつと毎日練習しているのだろう。

また、歌舞伎だけではなく、歌舞伎の舞台の設計も
もう一つ面白いところだと思う。それは舞台から客席を
縦断するように同じ高さで張り出した廊下で、実は舞
台の延長としての花道である。

例えば、主人公の弾正が観客の後ろから下手まで
歩く初めて登場する場面があって、自分が劇中の人
を近くに見られて、非常に感動した。さらに、真中の舞
台と花道二つの空間は物語をもっと円滑に進めるた
めに妙に構築されている。そのような舞台芸術も重要
であって、なかなか難しいと思う。



2-2 秋期バザー

2017年秋期バザーへのご協力
ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

今年の秋季バザーを、新入生の授業の関係で早めの9月27、28日の2日間、いつもの交流会館2号館の交流ホールで開催しました。

外語会の強力なご支援もあり、春期より多種多様な品物がたくさん集まりました。一番人気の炊飯器、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、アイロン、洗濯機等の電気製品をはじめ、布団、毛布、マットなどの寝具類、文房具、靴、秋冬用衣類、着物、机、本箱、鍋、フライパン、ケトル等の台所用品、日用雑貨、食品など、会場に収めきれないほど、たくさん集まりました。

最初の日には、開始の30分以上も前から留学生がドアの前に集まり、開始と同時に部屋いっぱい動けないほどの人数で、2日間で約250人が参加しました。

今回は、人気の布団や電気製品は、値段を付けて展示し、新製品は、1500円から、自転車は1000円、その他のほとんどは100円以下、書籍は無料で配布しました。8台の自転車は抽選にしましたが、1台の自転車に30人以上の応募者がありました。

参加した留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものがバザーでそろえられることがとてもうれしい、こんなに安くて信じられない！などと言いながら大きなものから小さいものまで色々と選んで、喜んで持ち帰っていました。

今回も日本人形、各地の民芸品、うちわなど日本的なものをたくさん頂きましたが、ほとんどがなくなりました。また、毎回自宅で精米したお米をたくさん送ってくださる会員の方からのお米は1キロずつの袋に入れて出していますが、1日目になりました。買ったのよりずっとおいしかったと留学生が感謝の言葉を伝えてきました。留学生の多くから、このバザーは私達にとって「来日最初の幸運です！」とってもらいました。



↑歌舞伎鑑賞後、国立劇場内の部屋で懇親会を行いました↓



※2番目の写真には、偶然、これまで留学生支援の会を支えてきた中嶋前会長（後ろ姿）、笹岡副会長、梅田幹事がそろうて写っています。[編集部]

これも会員の皆様のご協力のおかげ、と、いつも感謝しています。

バザー担当の会員に新会員の方も加わって下さり、たくさんの品物を仕分けしたり、売り場を担当したりして協力していただきました。

残った品物は、11月の外語祭に出店して、「留学生支援の会バザーと留学生によるパフォーマンス」に回すことにしました。

今回のバザーの収益金は、230,000 円でした。

いつもながら毎回、送料もいわず、様々な品物を提供して下さった会員、卒業生の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくご協力お願い致します。

(幹事:梅田)



毎回大勢の留学生が利用しています (↑)

大勢のボランティアによって、送られてきた品物が分類・陳列された前日の様子 (↓)



Such a useful event as Bazaar

2nd year Exchange Student
Bagdad Lesbayeva
Kazakhstan

Hello everyone! My name is Bagdad and I am from Kazakhstan. It is first time that I am an exchange student in Japan. In my article I would like to share with you my experience and thoughts about such a useful event as Bazaar.

Japan is the country where everything is being done for people's convenience. It has to be highlighted that Japan is that very place, where everyone feels himself comfortable, because all facilities are well advised. Bazaar which was made for students of Tokyo University of Foreign Studies, can be one of these proofs.

During the two days, 5th and 6th of April Bazaar in Residence No.2 was available for all students of TUFSS. Every student could buy clothes, shoes, bedding stuffs, electronics, souvenirs, kitchen facilities, bicycles, and so on there.

One should note here that the price for all things were about 100 - 500 yen, which is cheaper in comparison with other shops.

Another good thing about this event is that Bazaar took place in a residence of university and students didn't need to go somewhere else, which saves time and money for transportation,

What has to be noticed that almost everything was new and quality of clothes and kitchens stuffs was high. Furthermore, one should not forget that such kinds of events are extremely useful for foreign students. The reason is that students from the other countries couldn't buy facilities by themselves for that very price, like in Bazaar. Moreover, there was a lottery for bicycles in Bazaar, everyone could be

added to a list and won one of bicycles.

In case of me, I have bought many souvenirs and high quality, new clothes only for 100 yen which helps me to save money a lot. But it has to be noticed, that if you would like to find really good things you shouldn't be in a hurry and by taking your time to look through all things.

I would like to thank all of organizers of Bazaar for such a good experience and with TUFSS ISSA all the best in your new ideas and events. All of you absolutely were helpful for foreign students to start new semester with great mood.

※当レポートは今年の春季バザーに対する感想です[編集部]



↑七夕茶会の様子↓



2-3 七夕茶会

裏千家茶道倶楽部
七夕茶会を開催しました

裏千家茶道倶楽部 七夕茶会係
国際社会学部ポーランド語専攻2年
長島史織

7月11日、学内の和室にて、留学生をお客様としてお招きする七夕茶会を開催しました。

41人もの留学生がお越しください、日本文化である七夕の風習や茶道を体験していただきました。

お点前は立礼といって、正座ではなく椅子に座ってお茶を楽しんでいただくことができるものを選びました。留学生のみなさんは、初めて浴衣を着て大変うれしそうでお茶とお菓子も楽しんでくださいました。また、茶道についてたくさん質問をしてくださった方もいらっしゃって、留学生の方々に茶道を通して日本の文化のよさをお伝えすることができたと思います。

本茶会にご協力いただきました留学生支援の会の方々に、ありがとうございました。

2-4 鎌倉バス旅行

鎌倉への歴史見学旅行記

ISEP
バーバラ・コンチス
(ブラジル)

子供の頃から日本の文化や歴史に興味があったので、鎌倉への旅行について聞いてとても喜んだ。去年の9月に鎌倉へ行ったが、1人で行ったし、日本語も

よく読めなかったので、あまり地域の歴史が分からなかった。

しかし今回の3月21日の旅行でガイドさんのおかげで楽しいだけではなく面白いことをたくさん学んだ。同日の朝には、新宿で外大の皆さんとバスに乗って、8時半ごろに鎌倉へ出発することになった。バスで旅行するのが好きで、友達たちともっと楽しくなるので、楽しみにしていた。

旅行中に、学生たちはコーデイネータの皆さんからとてもかわいいお菓子の袋をもらった。「お腹がすかないように」と聞くと少し感動した。簡単な行動だったが、皆さんの優しさが感じられた。それだけではなく、旅行しているうちにガイドさんが教えてくれたことや自己紹介の時ののおかげで楽しい旅になった。

鎌倉に到着すると地元のガイドさんが迎えてくれて、グループに別れ一番目のお寺へ行った。はじめに円覚寺という有名なお寺を見に行った。円覚寺の周辺には自然が溢れており、素敵な場所だ。雨が降っていたが、本当に美しかった。お寺に入ると円覚寺の歴史が聞けたのでとても面白かった。

次は鶴岡八幡宮という神社へ行った。そこもすごく美しく、神社の赤色がまぶしそうだった。私にとって、日本の二つの宗教の平和な関係は見事だと思った。鶴岡八幡宮にいる間、有名な野球チームがそこにいたので、人が多かった。

その後、食事をしに行ったときに学生たちとガイドさんとコーデイネータさんも皆で美味しい日本食を食べて雰囲気よかった。レストランは由比ヶ浜という海岸の近くにあるので、雨が降っていても友達と海岸へ行った。私の出身はリオデジャネイロで、綺麗なビーチがいっぱいあるので、海を見るととても感動して懐かしい気持ちを感じた。

ビーチの後、長谷寺というお寺へ行くと素敵な像があった。本当に面白くて新しいことをたくさん学んだ。

最後に鎌倉のシンボルと言われている大仏を見に行った。去年も鎌倉へ行って、高徳院へも行ったので大仏を見るのははじめてじゃなかった。しかし、2度目でも、同じように楽しかった。ガイドさんの説明を聞き、どんどん歴史がわかるようになった。美しいだけではなく、大仏は素敵な像だと思う。大仏を見てから外大

に戻った。この修学旅行で綺麗なところへ行ったり、美味しい食事をしたり、色々学んだりした。とてもいい経験だった。

※他の鎌倉旅行の報告は前号(55号)に掲載しております。

[編集部]

EXPERIENCE

3. ホームステイ&ホームパーティー

3-1 ふじのくに留学生ツアー

ホームステイは本当に
素晴らしい体験でした！！

研究生

ヌシャーニ・チャマンティ・ディ・セイルワー
(スリランカ)

8月1日に、「ふじのくに留学生ツアー」に参加してきました。

このツアーは2泊3日で、静岡県沼津市を中心に、箱根などの日本の有名な観光スポットをゆっくり回ることのできるとても魅力的なツアーです。私にとって、中でも一番魅力的だったのはホームステイでした。

実は、ホームステイにあまり慣れていなかった私は、最初は色々悩んでいました。まず、2泊も同じご家族と一緒にいるので、何を話せばいいのか、何をしたらいいのかわかりませんでした。また、ご家族はやさしく対応してくれるのかなと結構悩んでいました。

しかし、学校では留学生と日本人学生としか交流できないが、ホームステイしたら日本人のご家族と知り合って新しい経験ができるのではないかと思って、ツアーに参加することにしました。

本当に、ツアーに参加してよかったです。今でも、ツアーのことを思い出してみると一番印象に残っているのは、ホームステイ先のことです。

私のホームステイ先は大嶽様のご家族、お父さんと

3-2 ホームパーティー

ホームパーティーと浦安市花火大会

大学院1年次

タティット・プスパニン・グガナ
(インドネシア)

お母さんでした。息子さんと娘さんもいますが、2人とも結婚されていて、東京に住んでいるそうです。

8月1日の夕方、お父さんとお母さんに会って、車でネオパーサという景色のいいところに行って、一緒に晩御飯を食べました。3人は、皆違うものを注文しました。「いただきます」と言って、ご飯を食べはじめようとしたら、お父さんとお母さんが自分の食べ物から少しずつ私に出して、「よかったら、味見してみてね」と言いました。自分の家族みたいだな思いながら、お礼を言っていました。

夕食後、お宅に行きました。お母さんが私のために和室と洋室を準備してあるのを見てびっくりしました。そこまで気を配ってくれるとは思わなかったからです。

また、お父さんとお母さんはいつも「朝ごはんは何を食べたい」、「食べられないものとかある」、また、ご飯を食べているときには、「無理して食べなくていいよ。食べられないものとかあれば残していいから」と繰り返していました。そんな時にいつも家族のことを思い出しました。

家族から離れて、1人で留学していた私にとって沼津市で知り合ったこのお母さんとお父さんの優しさは心の底まで感じました。また、ホームステイは最高だなと考えはじめました。

皆さんもホームステイの機会があれば、見逃さないで是非参加してみてください。一生忘れられない大切な思い出になるはずです。



7月29日に、東京外国語大学の卒業生の田中さんご夫婦の自宅で開かれたパーティーに招かれました。

毎年、会場が歩いて5分程度離れている浦安市の花火大会と同じ日に行われています。

パーティーの数日前に、田中さんが、招待状と自宅への行き方の案内をメールで送ってくれました。そしてその数日後、参加者のリストもメールで送ってくれました。日本語版と英語版で送ってくれますので、まだ日本語があまり話せない留学生も心配する必要はありません。

参加者には、東京外国語大学からの参加者だけでなく、東京国際交流館に住んでいる学生(とその家族)や、国際社会貢献センターの方々もいます。

ホームパーティーでは、寿司やからあげ、野菜料理など様々な料理を食べることができます。田中夫人が作った日本の家庭料理も美味しかったです。

ちなみに、ベジタリアン料理も用意されていますので、ムスリムの方も安心して食べられます。食べながら、色々な国から来た人々と話せて楽しい時間を過ごしました。

その日は、雨が降っていたため、花火大会が中止になる可能性もありましたが、午後5時ぐらいに予定通りに行われるという連絡が来ました。

パーティーの参加者と会場に向かって、田中さんが用意してくださった入場券で、特別な場所で見ることができました。会場の入り口では傘をさしていた人が多くて歩きにくかったですが、田中さんが予約してくれた席では、雨がまだ降っていたせいか、あまり人がいませんでした。

ときに雨が激しくなりましたが、花火は大変きれいでした。花火は7つのセッションに分けられていました。

また、各セッションのテーマに合った背景音乐が流

れていました。今年は第 39 回の大会らしくて、3 つ目のセッションは『ブーケ de サンキュー』というテーマでした。各セッションの音楽が全部すてきでしたが、私はイヌとネコが大好きですので、5 つ目のセッション『わんだフル☆にゃんだフル』が一番好きでした。可愛い音楽が流れているときに、イヌとネコの顔をした花火が打ち上げられました。

雨に降られて、花火大会が終わったら濡れていましたが、美味しい料理をごちそうになり、きれいな花火も見られ、楽しい日本の夏が体験できました。

大変優しい田中ご夫婦さんを始め、ほかの留学生やボランティアの方々とも知り合えますので、すごく大切な出会いができるパーティーだと思います。

VOICE

4. 留学生の活動

「翼」の夢 難民の子へ

「キャプテン翼」の作者は高橋陽一さん(56)。1981年に週刊少年ジャンプ(集英社)で連載が始まり、天才サッカー少年・大空翼が、ライバルと競い合いながら世界一を目指すストーリーだ。小中学生の間で人気となり、単行本の国内総発行部数は7000万部以上に上る。イタリヤやメキシコ、タイなど約20か国地域で出版された。テレビアニメにもなり、アルゼンチンのメッシ選手もファンの一人だ。

アラビア語版の第1巻は今年1月、アラブ首長国連邦の紀伊国屋書店ドバイ店で発売された。週間ベストセラーに入るなど売り上げは好調で、これまでに約800冊を売り上げた。



翻訳を担当したウバーダさん

人気サッカー漫画「キャプテン翼」のアラビア語版が出版され、中東で売り上げを伸ばしている。翻訳した東京外国語大のシリア人留学生は「夢を実現するために努力することの大切さを伝えたい」と願っている。

シリア人学生 アラビア語訳



アラビア語版が出版された「キャプテン翼」(©Yoichi Takahashi/Shueisha)

アラビア語版刊行は、紀伊国屋書店が集英社の許諾を得て企画。東京外大に翻訳者の仲介を依頼したところ、2012年から同大に留学しているカッサーマー・ムハンマド・ウバーダさん(26)に白羽の矢が立った。

昨年6月頃から作業を始め、これまでに全7巻中、6巻の翻訳をした。イスラム圏では、お酒が禁じられているため、酒も酔った男の登場シーンでは「あのよっぱらいですか?」というセリフを「あの変な人ですか?」と言い換えたという。

11年に内戦が勃発したシリアでは、難民が500万人を超え、ウバーダさんは「大空翼は、世界に羽ばたくことを目標に困難を乗り越えていく。祖国の子どもたちを助けたい」と語る。

アラビア語版は中東や北アフリカの19か国・地域で順次、販売される予定。集英社はシリア難民に1000部を配布する計画を進めている。

東外大留学生がサッカー漫画をアラビア語訳

ウバーダさんは、2012年9月に、シリアからの交換留学生として東京外国語大学に入学しました。その後、2014年度に留学生支援の会の奨学生に選ばれました。現在、国際社会学部日本専攻の4年生として在学しています。

※前号の掲載記事がいっぱいになってしまったため掲載が1号遅れたことをお詫びします。

[編集部]

ACTIVITIES

5. これからの活動

「国際交流の夕べ」

12月8日(金)

今年も！留学生との交流を是非お楽しみください。

日時:12月8日(金)18時～20時

会場:大学会館1Fホールダイニング

費用:無料

※なお、午後1時より、着付け・書道・折り紙など日本の伝統文化体験をそれぞれの会場で実施します。

ご入会、ご寄付

ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(敬称略) (平成29年6月21日～10月31日)

鮎澤孝子

勝又美智雄

中村カナコ

会員寄付者

■一般寄付(敬称略) (平成29年6月21日～10月31日)

池田修悟 井上東一・久美子

梅田由美子 大塚定

片岡護 北尾隆昭

北村みどり 小林浩

五味和行 鈴木文子

鈴木正道 野本京子

長谷川雄一 疋田妙子

本望春夫 松下宗柏

宮井捷二 森 健祐

矢部美保 山岸隆夫

吉田展子 鷺澤祐子

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。

その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

平成29年度 会費納入のお願い

平成30年3月31日まで受付

※来年度の活動ご支援いただくために、是非会費納入の「ご継続」をお願い申し上げます。納入をお忘れの方は本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みください。

10月31日現在

会員数：1,140名

※ すべての活動は皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振り込みくださいます様、お願い申し上げます。

一般会員:年会費 3,000円

協賛会員:年会費 20,000円

留学生支援の会新体制のお知らせ

10月1日より、留学生支援の会の会長、副会長が交代しました。(敬称略)

会長に就任 鮎澤孝子

副会長に就任 勝又美智雄

副会長に就任 岡田昭人

会長を退任 中嶋洋子

副会長を退任 笹岡太一

幹事の梅田由美子が9月末日に東京外国語大学留学生課を退職しました。

幹事の井上久美子が実務のトップ(幹事長)に就任しました。

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成 29 年 9 月 24 日(日)

平成 29 年 10 月 28 日(土)

[お問い合わせ先]

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付 留学生支援の会

TEL: 042-330-5183 / 5759

FAX: 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

留学生支援の会発足の経緯

※笹岡前副会長の作成資料から抜粋[編集部]

1. 設立の経緯

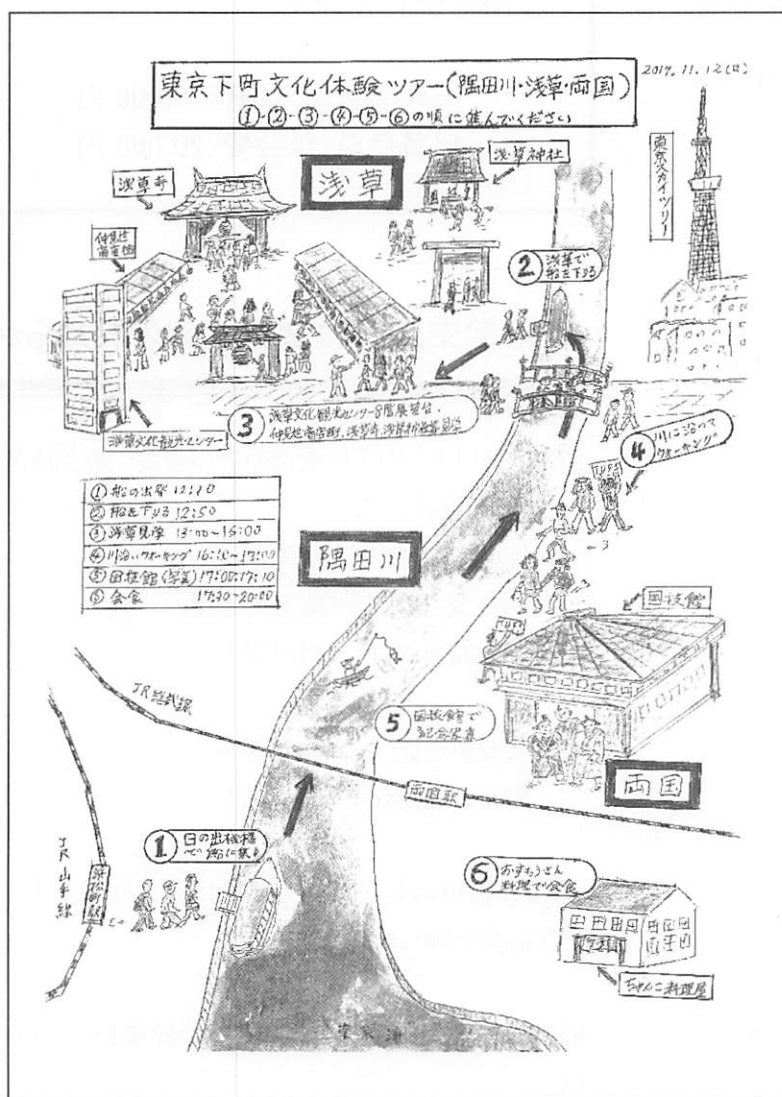
「東京外語会会報」誌 No.85(1999年(平成11年)3月号)に当時の中嶋嶺雄学長が『留学生支援の会(仮称)設立に関するお願い』を寄稿して、会の設立を呼びかけた。

2. 設立のための最初の会合出席者

1999年6月12日 出席者:中嶋洋子(発起人)、望月圭子、笹岡太一、留学生課2名(鈴木課長、梅田由美子)、その他7名(合計12名)

APPENDIX

笹岡太一さんの絵ガイド作品



笹岡幹事が下町文化体験ツアーの絵ガイドを作成

留学生支援の会幹事(前副会長)の笹岡太一さんは手書きで留学生イベントの絵ガイドを作ってくれます。

参加する留学生がこれを見ると、当日の動きが一目でわかります。このたび11月12日に実施された「東京下町文化体験ツアー」でも凝った作品が出来ましたので紹介します。

東京外国語大学 留学生支援の会

No.57
年3回発行

会報

Since 1999

春のバザー開催！3月26日(月)～4月1日(日)バザー用品募集します！
ボランティア募集！バザーの準備や当日販売を行う人手が足りません。

Pick Up
Event 2018

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。
留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

INSIDE

Page 1. 1. 巻頭言
藤村知子 (留学生日本語教育センター長)

Page 2. 2. ご挨拶
鮎澤会長 (留学生支援の会)

Page 3. 3. 活動報告
3-1 東京下町文化体験ツアー
竹内幹事 (留学生支援の会)
イェ ジヒ (韓国)
林 アラン 正人 (ブラジル)
3-2 国際交流事業
参加幹事からの報告
岡田副会長 (留学生支援の会)
赖瑜莹 (中国)
3-3 外語祭バザー
佐久間幹事 (留学生支援の会)

Page11. 4. これからの活動予定

Page12. 春期バザーのお知らせ

FOCUS

1. 巻頭言

日本での生活を心豊かに

留学生日本語教育センター長
藤村知子

留学生日本語教育センターは、東京外国語大学に留学してきた、様々な国からの留学生に日本語教育を提供している機関です。私費研究生、交換留学生、国費留学生とさまざまな資格の留学生がおり、留学生支援の会の活動にどれだけ助けられているかわかりません。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

来日直後の留学生にとって、支援の会によるバザーは、生活を始めるにあたっての支えとなっています。

日本語のクラスで、暖かそうなセーターを着ていた東南アジアからの学生に「いいセーターですね」と声をかけたら、「支援の会のバザーで」との

答えがあり、頼りにしている様子を垣間見ることができました。

また、支援の会の会報には、留学生による日本の文化体験や、訪問記などが載っています。日本語教師はよく「(留学生の) みなさんは、～をしたことがありますか。」という質問をして、留学生の日本体験の様子を探ろうとしますが、「はい」と元氣よく答えた留学生が会報に体験記を書いていると、授業だけでは得られない日本の生活体験の機会を支援の会が設けてくださったことがよくわかります。

センターでは、授業で日本の生活や習慣、文化に触れるようにしておりますが、センターで提供できる研修旅行や学校見学などの機会は限られているため、支援の会主催の行事は、多くの留学生にとって日本での生活に彩りを与え、心豊かにしてくれるものと思います。

ところで、「留学」という言葉はいつから使われているのでしょうか。日本史の教科書には、7世紀から9世紀にかけて中国に留学生や留学僧が派遣された、ということがよく書かれています。その中で中国に838年から847年まで滞在した留学僧が書いた記録『入唐求法巡礼行記(にっとう/ぐほう/じゅんれい/こうき)』が現在まで伝えられています。本学の図書館で「円仁(えんにん)」と検索すれば、現代語訳で読めることがわかります。また、アメリカの日本研究の草分け的存在であるEdwin O. Reischauerによる英語訳“Ennin's Diary: The Record of a Pilgrimage to China in Search of the Law”もあります。

この記録を読むと、当時の中国での留學生活がよくわかります。日本政府から支給された奨学「金」(本物の「金(きん)」を持って行きました)を使って、市場で珍しいものを買ったり、中国の有名な僧に会って、わからないことを質問してその答えを日本に送ったりする様子が書かれています。それだけでなく、中国で様々な人々に出会い、助けてもらった様子も読み取ることができます。

私はこの記録を少し勉強したあと、日本語教師となり、様々な国から来た留学生に出会うことになりましたが、時々この記録を読み返しては、1000年以上前の留学僧の思いが今の留学生にも通じることを感じています。

円仁は偶然の出会いによって助けられることが多くありましたが、本学には「留学生支援の会」という立派な組織が留学生の生活を支えるだけでなく、日本での生活を心豊かなものにしてくれます。支援の会の活動に深く感謝申し上げます。

2. ご挨拶

新しい体制での支援の会

会長 鮎澤孝子

中嶋洋子会長からのご依頼で留学生支援の会の会長を引継ぐことになったことを2017年6月号の巻頭言に記載致しました。当面は会長見習い期間ということで幹事会や日本理解事業の一つである東京下町文化体験ツアーにも参加させて頂きました。

ところが、あつと言う間に時がたち、2018年を迎えて会報も2月号を発行する時期になりました。従来、ご挨拶は会長の担当でしたが、新体制では、会長と2名の副会長が交代で担当し、当号は会長の私が担当致します。

実は、見習い期間がまだ十分ではなく、1月の幹事会でこの支援の会の会報は支援の会の会員の皆様に会の活動をご報告するためのものであるということを知った次第です。会員の皆様の会費で運営されているので、会費がどのように使われているか事業報告、決算報告などが必要なのです。そして、幹事の皆様も会員であり、ボランティアで全ての活動を支えているのです。幹事の皆様は担当の曜日を決めて留学生支援活動の部屋に詰めて、留学生の相談に乗ったり、日本理解事業をそれぞれに担当し、その準備をしたり、

ツアー参加者の受付をしたり、ツアーに同行したり、活動報告も担当してたりしているのです。

まだ、私は会長の任務を十分に理解していない状況ですので、中嶋元会長、笹岡元副会長、梅田元幹事にも、支援の会の顧問として引き続き、会の運営について助言を頂くことにいたしました。

早速、1月28日の幹事会では留学生支援の会の会則の変更が必要というご指摘を笹岡元副会長から頂きました。会則を改めて読み直すといくつか疑問点もあり、確かに会則の変更が必要だとは思われるのですが、総会については、会員が1000名以上いる会なので、会員が総会に出席するのは無理なことであることも了解しました。実は、現在の会則では幹事会が総会を兼ねることも可能であると読めるので、このままにしておいた方がよさそうという意見も出ています。このような事情もあり、会則の修正は部分的にしようという案が通りそうです。会員の皆様、どうぞよろしくご了承ください。

3. 活動報告

3-1 東京下町文化体験ツアー ～隅田川クルーズ、浅草散策、 江戸東京博物館、ちゃんこ鍋懇親会～

日 時 2017年11月12日(日)
参加者数 留学生42名、日本人学生3名、
東外大職員3名、幹事8名

毎年恒例の「東京下町文化体験ツアー」を、古き良き日本が残る下町を堪能しつつ、留学生間や、留学生と日本人学生間の親睦を深めるために実施した。昨年に続いて今回も日本人学生の参加が少なかったため、職員の方にグループのリーダーをお願いすることになった。

幸い当日はお天気に恵まれて、青空のもと絶好の散策日和となった。

ほとんどの参加留学生が東外大の寮で集合して、まとまって日の出桟橋まで移動してきた。これによって、参加者が集合時間に遅れてしまうなど、例年の桟橋での混乱がなくなった。

今年は、江戸東京博物館がリニューアルによる休館中だったため、浅草寺付近での散策時間をかなり多めに取ることが出来た。しかし、両国国技館に着いて、その前で記念撮影をした時点で日没時間となってしまった。

ちゃんこ鍋店では事前に予約した特別な食材配慮を店側がうまく準備してくれた。また予定していたステージが工事中だったため、別にお立ち台を用意してくれた。参加者全員の自己紹介、お国自慢などを披露して盛り上がった。

(幹事 竹内)

東京下町文化体験ツアーの感想 留学生同士の交流ができてよかった

言語文化学部1年
イエ ジヒ
(韓国)

今回のツアーは浅草を中心に行われた。その始まりは日の出桟橋の水上バスに乗るところだった。そこで遊覧船に乗って浅草に向かった。建物が並んでいる都心に隅田川が流れる景色がとても美しくて感心した。

浅草では決まっていたグループに分かれて移動した。学部生であっても会う機会があまりない交換留学生たちとも話しができて嬉しかった。

水上バスから降りたらスカイツリーがよく見えて、浅草の商店街の近くでした。浅草文化観光センターの展望台から見下ろすと、浅草寺の全体外観が紅葉に囲まれてものすごく日本らしい雰囲気であった。

浅草寺の近くは着物を着て写真を撮る女の子を含め、人力車を引く人、外国人など大勢の人々で混んでいたの、人波をかき分けながら前に進んだ。浅草寺の中には細長い商店街に店が並んでいた。

時間があつたので、商店街の裏通りを歩いてみた。驚いたのは、商店街が密集しているにも関わらず、綺麗で整頓されていることだ。浅草ならではのにぎやかさを、そこに立っているだけで感じる事ができて、大きい活力を与えてくれた。

細長い商店街を通ると寺がある。そこには長く並んだ人々が参拝をしていて、香を焚く匂いが激しかった。100円でくじを引いて占いをするとか、絵馬に望みを書くことも面白い文化だと思った。

浅草寺の左側には屋台が並んでいて祭りのような雰囲気だった。焼きそばやチョコバナナなどの食べ物があったため、他の学生たちと昼ご飯としているんなものを食べたが、何もかも美味しかった。自由時間には日本風の可愛い飴や記念品を見ながら興奮して歩いた。

その後、集合して隅田川に沿って国技館へ向かった。隅田川は広いし綺麗なので、川を見ることも心地よかった。歩きながらは他の交換留学生とどんな授業を受けているのか、日本語はどうやって学ぶかなどについて話した。

国技館は相撲選手が競技をしたり、練習をする場所である。しかし、今回は入ることはできなかったの

私は後日試合を見に行くことに決意した。

夜になって暗くなったので、国技館近くの店でご飯を食べた。鍋料理は初めてだったので新鮮であった。刺身などもあったので、典型的な日本料理を体験できて嬉しかった。次々と相次ぐ料理を見ながら、日本人が少食であるというステレオタイプは完全間違っていると思った。

ご飯を食べながら、前に出て自己紹介をし、国ごとに各言語で歌を歌ったので、面白く楽しい時間であった。

日本に来てから、日本を観光することは時間もなくいろいろな理由で難しかったので、遊覧船に乗り、美味しい物も食べて素敵な経験をする事ができてとても嬉しかった。また、ブラジルとかロシアなど他の国々から集まった人々が自分の文化と国を紹介したので文化交流の側面もあったと思う。

留学生であるからには、学業などのことで忙しいので、日本を歩き回り観光することは難しい。また同じ留学生同士でも顔を合わせる事がほぼないため交流しにくい。そのため、今回の機会を通じて素晴らしい思い出を作れたことがとてもありがたい。次回からも是非とも参加したいと思う。





浅草寺 (イェジヒさん撮影)

東京下町文化体験ツアーの感想 やり残したことがあるのでまた行きたい

言語文化学部・日本語(J2)
林アラン正人
(ブラジル)

11月12日、東京の下町ツアーに行きました。多磨駅から浜松町駅まで大人数で乗車できたことにまず驚きました。誰かが迷ってしまうのではないかと心配していましたが、特にそのようなことはなく全員が浜松町駅近くの集合場所に到着できて良かったです。

ツアー中の自由行動で全員の一斉移動は大変であるためグループに別れて、まず自己紹介を行いました。その後、船に乗り隅田川を走りました。船は3階建てで安全のためかほとんどガラスで囲まれていて風を浴びることができませんでした。船内で楽しく様々な留学生とお話することができました。

船が浅草付近に着き、ここからグループ別に行動しました。我々の班は残念ながら初めから一人が別のグループと一緒に行動しはじめたので、良くないスタートになりましたが、何とか残りのメンバーで相談しながら観光できました。

最初に行った場所は浅草寺です。浅草には9月頃に開催される「浅草サンバ」というイベントで雷門の前を通ったことがあるくらいでした。初めて中の方へ入ってみました。人の数に驚きました。観光客の数がかなり多かったと思います。向こうへ行く人も、向こうか

ら来る人もいて、かなり混んでいたのが途中で自分のグループを見失ってしまいました。最後に何とか合流できました。

歩いている途中では色々な店が並んでいて、つい色々買ってしまいそうになりました。賽銭箱のところまで行ってお願いをしました。

グループリーダーがおいしいメロンパン屋さんがあるというので、みんな気になってリーダーに着いて行きました。そしてお店には行列があり、その人気度はやはりすごいものでした。お店の名前は「花月堂」です。この元祖ジャンボメロンパンを食べてみました。食感が絶妙でした。他の品もおいしそうだったので機会があれば、また行ってみたいです。

「花月堂」のあった通りを食べながら歩いた後、東京スカイツリーへと向かうことにしました。歩くのは疲れてしまうのでみんなで電車で行きました。初めてのスカイツリーでした。空いている方であったので気楽に観光ができて良かったです。ツリーに上ったりはしなかったため、また今度上ってみたいと思います。その後、浅草観光文化センターの展望台から景色を眺め、そのまま戻りました。

次に国技館まで留学生とお話をしながら徒歩で行き、その前で写真を撮りました。

最後にみんなでちゃんこ鍋を食べました。ちゃんこ鍋以外にもお刺身、お寿司、お肉、ピザなどがあり、大変おいしくいただくことができました。

今回のツアーは非常に楽しかったです。機会がありましたらまた是非行ってみたいです。



浅草寺雷門の前で

3-2 2017年度国際交流事業を開催

第1部「日本文化交流会」

第2部「国際交流の夕べ」

日時 2017年12月8日(金)

13:00~17:00 第1部/18:00~20:00 第2部

会場 学生会館と国際交流会館交流ホール

第1部 日本文化交流会

(全体参加者 150人)

- ① 着付け教室(国際交流会館2号館交流ホール)
参加者 45人
- ② 生け花(華道)教室(学生会館集会室 B)
参加者 23人、作品 34杯
- ③ お茶教室(学生会館和室) 参加者 36人
- ④ 日本の伝統的遊び教室(学生会館大集会室)
参加者 40人
- ⑤ 囲碁教室(学生会館集会室 A) 参加者 6人



順番待ちの着物体験

竹内幹事

一番混んでいたのはやはり着物体験。順番待ちの列ができていて、会場は熱気に包まれていました。着付けが終わると、大学内を嬉しそうに歩き、写真を撮り合う留学生の姿があちこちで見られました。

やみつきになる髪結いのお手伝い

佐久間幹事

着付けを手伝いました。最初は受付に専念し、途中から髪結いを手伝いました。私も女の子の母である事を思い出して夢中になりました。

あんまり可愛いので、「お国のお母さんにお写真を送ってあげてね」と、一人一人に言いながら結いました。今回は少し上手になったところで終了したので、次回も是非やりたいです。

お天気がイマイチだったので、外で晴れ着姿の写真を撮れなかったことは可哀想でした。しかし会場に、素敵な打ち掛けを展示した撮影スポットが設けてあったので、その前での撮影が続きました。

着付けの先生方が後片付けをしながら、「ここでの仕事は楽しいのでやみつきになる」と話していました。プロとはいえ4時間も立ちっ放しで、時間に追われる作業は大変だったにもかかわらず、嬉しいお言葉でした。



着付け教室

15年間でほぼ100人に着付けを実施

井上幹事長

※これまで中心となって着付けを支えてきた井上さんには、編集部からの質問に対して回答をもらいました。

Q1:国際交流の夕べでこれまでに累計何人くらい着付けを行いましたか？

A1:私が1人で着物を着せた数は一回当たり6人平均でしたから、およそ15年関わって100人前後です！

Q2:初めて着るときの留学生の反応はいかがですか？

A2:皆さん着物の色や模様等にとっても感心して、どこで買えるのか？いくらくらいするものなのか、質問します。そして皆さん金額を聞いてビックリします。また、紐が多いことと、かなりタイトに絞めることにビックリします。最後に、経験出来て本当に嬉しいと、皆さん喜んでくれます。

Q3:井上さんが着物とかかわってきたこれまでの歩みを教えてください。

A2:洋裁学校を卒業後 20 年くらいその関係の仕事をしました。知り合いの葬儀屋さんからの「井上さん着付け出来ないの？」という一言から、着物との縁が始まりました。一度始めるとなかなか止められません。着付け師養成講座を受けて、少しずつ着付け師として仕事ができるようになりました。



生け花にふれあうきっかけに

生け花教室講師 金盛ひろ美

留学生の皆さんは、興味深く熱心に説明を聞きながら、生け花に取り組みました。生け終えた時は皆さん笑顔になり嬉しそうでした。日本文化やお花に関心がある留学生に、生け花を体験する一つのきっかけを作ることができました。

開始時間前から7, 8 人の留学生がやってきて、クリスマスリースや、投げ入れ等、色々な生け方に興味を示していました。

参加者は、生け終わった自分の作品を第2部のパーティー会場に飾ることができたので満足そうでした。

支援室で行っている生け花教室のことを、参加者が知らなかったのが、知ってもらった機会にもなりました。



生け花(華道)教室



囲碁教室



お茶教室



伝統的遊び教室

第2部 国際交流の夕べ

(参加者 190 人、うち留学生 125 人)

演奏や踊り等で各国の留学生がパワーを發揮

高橋幹事

「国際交流の夕べ」に初めて参加しました。外語会や市の関係の方などの挨拶から始まったことから、留学生を様々な方々がサポートしていることを実感しました。

テーブルには、和・洋・中のオードブル、お寿司、サンドイッチなどボリュームたっぷりの食事が並んでいて、留学生の目が輝いてました。

支援室でアルバイトしている中国の留学生をはじめ、下町文化体験ツアーに参加した留学生をたくさん見かけました。

パフォーマンスタイムでは、ウズベキスタンの踊り、内モンゴルの民謡等、留学生が自国の文化を披露してくれたことが素晴らしかったです。

宴もたけなわになり、最後は、岡田昭人先生が率いるバンドがロックン・ロールを演奏して、留学生が踊りました。様々な国から来た留学生のパワー、熱気で盛り上がったひとときでした。

東外大ならではの留学生との交流の機会

留学生支援の会副会長 岡田昭人
大学院 総合国際学研究院 教授

「国際交流の夕べ」が開催され、世界各国からの留学生や日本人学生をはじめ、大学教職員、奨学財団関係や地域交流団体等、大勢の参加を頂きました。

はじめに、伊東祐郎副学長、鮎澤孝子留学生支援の会会長からご挨拶があり、「乾杯！」の発声の後、たくさんの美味しい料理を食べながら、留学生のパフォーマンスが披露されました。

ウズベキスタンの留学生による伝統的なダンス、中国 内モンゴルの留学生による民謡、また学生と教員によるバンド演奏等が行われ、楽しい雰囲気のなかで大いに盛り上がりました！

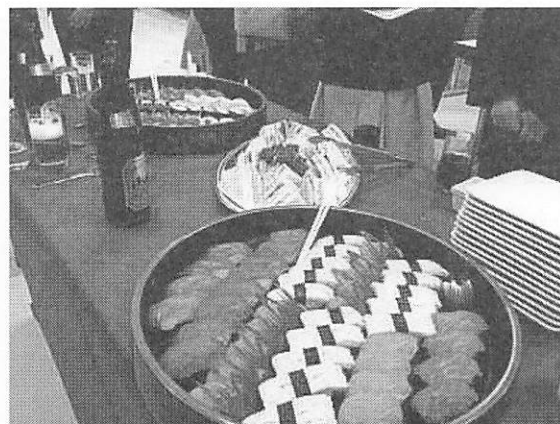
本学には様々な留学生が勉学に励んでいます。日

頃あまり接することのない人々と交流することは、生きて日本語や文化を学ぶための大切な機会です。

皆様もぜひ一度「国際交流の夕べ」に参加してみてください！



岡田バンド



「国際交流の夕べ」に参加して

大学院総合国際学研究所博士前期課程1年

赖瑜莹

(中国)

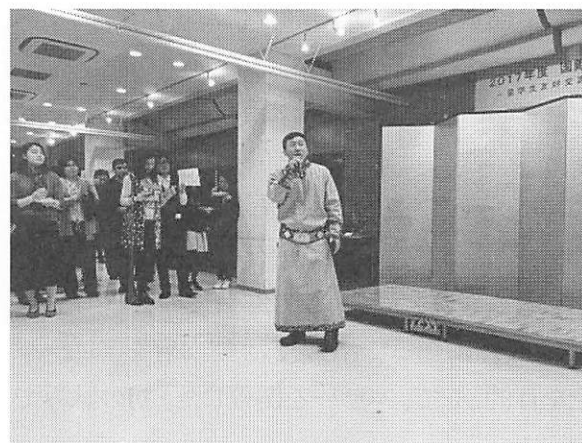
私は「国際交流の夕べ」に今回初めて参加しました！ 会場のミールは普段に食堂として利用されていますが、この日は綺麗に装飾されていました。留学生にとって大好きな日本の伝統料理——お寿司など、たくさんの美味しい料理が振舞われました。

パフォーマンスタイムに入り、私は、もう一人の中国人留学生と一緒にウクレレを演奏しながら日本の曲「風になる」を中国語で歌いました。この歌を知っている人が多いので皆さん一緒に歌ってくれておおいに盛り上がりました。

懇親会では留学生を中心に活発な交流が行われました。私たち留学生はこうした機会を通じ、自分の国の伝統文化を広げ、友たちをつくり、様々な人たちと有意義な交流がもてると思います。



日本の曲「風になる」を中国語で



ウズベキスタンの留学生 ↓

内モンゴルの留学生 ↑



3-3 2017年外語祭バザー

日 時 2017年11月23日(木)~25日(土)

会 場 研究講義棟2階226教室

来場者数 延べ500人以上

毎年、春と秋のバザー出品のため、全国の留学生支援の会会員の皆様から多くの品々が届けられる。その多くは、留学生に格安で提供されているが、中には留学生の生活に合わない品もある。家族向けの品(土鍋、湯豆腐や晩酌のセット、大皿等)や高級な品(茶器のセット、漆器、宝飾品、花瓶や壺、グラス等)、高品質だがデザインが若物向きでない衣料品などだ。それらの一部が国際交流会館2階の倉庫に保管されていた。

そこで、多くの方々の来場が見込める外語祭で、これらの品々を販売して、売上金を会の運営の一助とすること、またこの機会に、留学生支援の会の存在をもっと大学内外に知ってもらい、活動内容をアピールすることを目的として、バザーを開催した。初の試みであった!

春・秋のバザーから取り置いた食器・日用品・衣料品に加えて、今回のバザーのために、次のような新たな出品も募った。幹事の手作り作品(井上さん・小平さんのクリスマスリース、井上さんの苔玉、野口さんの樹脂粘土細工のリース・花飾り、リボンレイのストラップ)、梅田さん縁の方々から寄付してもらったアクセサリとスタンドグラス、ロシアからの留学生ボリスさんが実家から取り寄せてくれたロシアンコーヒー、クリスマスのお菓子(市販のもの)、レトルトのインドカレー、このバザー用に幹事から新たに寄付された日用品・衣料品・クリスマスカード等、マグカップやグラスにお菓子やカードを詰め合せたアレンジギフト等。

また、販売だけでなく、次のようないろいろな催しと組み合わせた。シリアからの留学生ミリアムさんと、インドからの留学生リーマさんによるヘナタトゥーの実演、韓国からの留学生ソさんによるチェギチャギ(韓国の蹴鞠を使った伝統ゲーム)、世界各国の民芸品や民族衣装を展示(一部を販売)、支援の会の活動を紹介

するアルバム等を展示、会計時にさりげなく支援の会への入会を勧誘(パンフレット・会報・会費振込用紙のセットを配布)。

今回の大学祭バザーは実り多いイベントであったと思う。会場に指定された研究講義棟2階の226教室が、メインステージから遠い離れ小島のような部屋であったので、初日の朝からポスターを貼ったり、ビラを配ったりして宣伝に努めた結果、開場と同時に多くの方々にご来場くださり、終日賑わった。

各30個ずつ用意したクリスマスのお菓子とレトルトカレーは初日でほぼ完売したため、幹事が追加の品を買いに走った。100セット用意したボリスさんのコーヒーも全て完売した。手作り品もかわいいと好評であった。食器類・日用品・衣料品・アクセサリ類は、クオリティーが高く、破格に安いと喜ばれた。

2日目からは、色々な器にお菓子やカードを詰め合わせてリボンを掛けたアレンジギフトを作ってみたところ、作る傍から多くの方が手にとってくれた。ヘナタトゥーの実演への来客も途切れることがなかった。

来場者の多くは、外大生の保護者や友人・知人であり、大学近隣にお住まいの方もいた。中には既に支援の会の会員という方も。これまで、会報の送付と、バザー品の授受だけで繋がっていた会員の皆様と、直に触れ合えるよい機会となった。

準備不足のドタバタはあったものの、皆様の多彩なセンスが発揮された、とても楽しい3日間でした。

(幹事 佐久間)



外語祭で実施したバザーは初の試み

ACTIVITIES

4. これからの活動予定

3月20日(火)

古都鎌倉見学ツアー

開催日 3月20日(火)
募集 留学生、日本人学生を合わせて40名
コース 新宿駅西口集合ーバスで鎌倉へー
円覚寺ー鶴岡八幡宮ー由比ヶ浜(昼食)
ー長谷寺ー鎌倉大仏ーバスで新宿へ
※コースは変更する場合があります。



ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(平成29年11月1日~30年1月31日)
飯田節子、大橋美津子、関尚子、武田洋美、
田中栄子、田中紀子、橋本奈緒美、星野かおる、
吉田早苗、梁奕華 (敬称略)

会員寄付者

■一般寄付(平成29年11月1日~30年1月31日)
浅野尚文、伊藤真由美、挙市玲子、頼母木久代、
寺田朗子、中村宏、横石邦彦 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

1月31日現在
会員数：1,150名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいます様、お願い申し上げます。

一般会員：年会費 3,000円
協賛会員：年会費 20,000円

♪ 年度末までのお願いです ♪

平成29年度会費納入のお願い
3月30日(金)まで受付

次年度の活動をご支援いただくためにも、是非会費納入継続をお願い申し上げます。
納入をお忘れの方、納入率アップには是非ご協力ください。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいます様、お願い申し上げます。

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成29年12月3日(日)
平成30年1月28日(日)
平成30年2月18日(日)

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付 留学生支援の会
TEL：042-330-5183
FAX：042-330-5189
<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2018, TUFFS International Student Support Association

春期バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

開催:4月4日(水)~4月5日(木) ※2日目の5日は日本人学生も歓迎します

場所:国際交流会館2号館交流ホール

留学生に毎回大好評の春期(4月期)バザーの開催に向けて、受付期間をご確認の上、バザー用品のご準備、ご手配をお願いを申し上げます。

バザー用品受付期間

3月26日(月)~4月1日(日)

お送りいただきたい物品

- 各種辞書類、コミックなど
- 台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)
- 日常生活用品(自転車、鏡、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など)

※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については、電話で事前にご連絡をお願いします。

※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば若い学生向けの春・夏物を希望します。

- 国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用 男性羽織・袴一式、振袖、帯など

※古着可、ただし使用可能なもの

送付先

東京外国語大学 留学生課気付 留学生支援の会
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

TEL:042-330-5183

送料

宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。お手数ですが「午後便」をご指定ください。



JOIN FOR BAZAAR!



※バザー用品の搬入に関する事等お問い合わせ、当日のお手伝い・参加可能な方のお申し出は事前に下記までお電話下さい。

東京外国語大学 留学生課気付 留学生支援の会
TEL:042-330-5183

WE NEED YOUR HELP!

お願い: バザーの人手が足りません! 皆様のご協力をお願いします!

バザー用品の物品仕分けや、事前準備・後片付けをするご協力をお待ちします。